

明治中期から大正期における 洋楽器で日本伝統音楽を演奏する試みについて ——楽譜による普及を考える——

上野 正章

洋楽器で日本伝統音楽を演奏する試みは、明治期に生じた転換期における一過性のものであると考えられ、日本近代音楽史研究ではそれほど重視されることは無かった。しかしながらこのような試みがあったからこそ、日本伝統音楽は近世以前の柵（しがらみ）から解き放たれて洋楽器を通じて多くの人々に楽しまれるようになったのではないだろうか。本論は、洋楽器のための日本伝統音楽の楽譜を調査することによって、明治中期から大正前期における日本伝統音楽の普及と再編を明らかにする試みである。

まず手風琴の流行とベストセラーの楽譜集の『日本俗曲集』を検討し、どのようにしてこの楽譜集が西洋音楽を広めたのかということ进行を明らかにする。次いでヴァイオリンのための日本伝統音楽の楽譜を検討し、明治後期から大正期における普及の実態を明らかにする。

キーワード：ヴァイオリン、出版、中尾都山、大阪、『音楽界』

序

近代日本における音楽文化というと真っ先に思い浮かぶのが西洋音楽の浸透であるが、同時に指摘できるのが和洋折衷である。明治期の音楽実践を調べてみると、手風琴で《越後獅子》を演奏したり、ヴァイオリンと箏で《六段》を演奏したりする様々な試みを見出すことができる。レコード吹き込みも行われたようで、楽曲によっては当時の録音も残されている。だが、ややもすると不釣合いにさえ聴こえる合奏は、いささか滑稽にすら思われる。

おそらく聴いて楽しむ音楽というよりも弾いて楽しむ音だったのだろう、近世以前の身分や土地に縛られた日本伝統音楽のあり方を考えると、簡単に楽器を入手して思いのままにふしを吹き鳴らすという行為は、何にも代え難い楽しいことだったと思われる。また、録音や録画の無い当時、タブ譜を辿りながら一つずつ音を発するとよく知っている旋律が浮かび上がってくる楽しみは、驚くべきものであったのではないだろうか。この手軽さと気楽さが急速な普及の要因だったに違いない。さらに、この試みが洋楽器を普及させたのみならず、近世以前の身分の柵（しがらみ）から日本伝統音楽を解き放ち、多くの人々の間に浸透させたと考えられる。それでは、日本伝統音楽を洋楽器で演奏する試みはどのように生じ、どのように進展していったのだろうか。

単純な問いだが、答えるのが難しい問いでもある。新聞や音楽雑誌を調査すると、明治期には頻繁に言及されるものの、大正期に入ると徐々に記述が減少し、昭和期に入るとまれにしか見当たらなくなるからである。これをそのまま受け止めて、日本に西洋音楽が浸透するにつれて徐々にいわゆる本格的な西洋音楽が求められるようになり、こういった営みは廃れていったと考えることもできる一方で、広く浸透するにつれて珍しさがなくなり、ことさら取り上げられることが無くなって

しまったとも考えることができる。晴れやかな演奏会活動は誌（紙）面の調査によってある程度辿ることができるが、裾野に広がる音楽の楽しみを拾い上げることはなかなか難しい。本論は、新聞や雑誌の言葉に加えて楽譜出版にも注目してこの疑問に挑む試みである。

楽譜と音楽文化は一定の関連を持つ。とりわけ西洋芸術音楽のように楽譜に依拠する音楽では、強い関連を指摘することができる。ある時期に流布した楽譜を網羅的に調べれば、その頃どのような楽曲が楽しまれていたのかということが判明する。また、楽譜の刷数を調べればどの程度出版されたかということが明らかになる。さらに、ベストセラーとなった楽譜を調査することによって、楽曲の普及の傾向をある程度明らかにすることができる。

特に注目されるのは楽譜目録である。楽譜の通信販売目録はある時点で流通していたすべての楽譜が掲載されているので、一瞥するとあたかも当時の大規模な楽器店の楽譜売場の前に立つが如く音楽文化の状況を把握することができる。また、楽譜の出版目録は、ある出版社のある時点における楽譜の発行状況を如実に示す。そして、日本においては、明治期から楽譜の通信販売が行われ、大正期には通信販売目録も発行されていた〔無記名 [1923]〕。したがって、楽譜出版の傾向は全国的な音楽文化の傾向と関連性があると考えることができる。

誌（紙）上の言葉と楽譜の流通とを対比するならば、文字資料を別の角度から検討する可能性が開かれるのではないだろうか。何かを隠すが如き饒舌に疑問符を付し、書き記されなかったことを幾らかなりとも甦らせることができるのではないだろうか。

1 手風琴⁽¹⁾——明治中期

我邦に於ける洋楽沿革史上殊に本項に於て逸すべからざる人は、^{〔しかまとつじ〕}四竈訥治にして、明治12年（1879）頃欧州楽の普及に尽す所甚大にして、日本楽曲を訳譜せしは彼を以て嚆矢とす、勿論輸入の初期なれば、今日見るが如き完全に訳譜されたるものに非ざれど、洋楽普及に功績ある人にて、彼の事績は和洋調和楽⁽²⁾の端緒と云ふも敢て過言にはあらざるべし〔加藤 1909：79-80〕。

洋楽黎明期における洋楽器で日本伝統音楽を演奏する試みに関して先ず言及すべきなのは、四竈訥治の活躍である。おそらく同時代を生きたと考えられる加藤の評価から彼の大活躍が伝わるし、実際、『手風琴独習之書』を始めとする楽器の入門書や唱歌集の執筆など、幅広い業績も指摘できる。しかし、とりわけ重要なのは、雑誌『音楽雑誌』（1号（明治23年（1890）9月）-60号（明治29年（1896）8月））を出版し、日本において望まれる音楽文化のあり方を提案したことである⁽³⁾。

誌上で展開した四竈の主張は明快である。「本邦の楽として望む所は、西洋楽曲よりも能ふべくんば能ふべき丈け、本邦楽に應用して其短所を補ふ事を是認する者也」〔四竈 1893：1〕。そして、これを実現するために楽譜の導入が不可欠であると説く。「今茲に西洋音楽の長所を抑えて應用するの先手段は、楽譜の採用にあり」〔四竈 1893：2〕。四竈の活発な執筆・出版活動の根幹には日本伝統音楽の改良と楽譜の導入という考え方があった。

それでは、四竈の仕事はどの程度影響力があったのだろうか。一つの目安として、『音楽雑誌』第36号に掲載されている都道府県別定期購読売上部数一覧表が参考になる〔無記名 1893：15〕。増井敬二は、愛媛県の発売が無いことに注目して定期購読の発行部数を290部と類推し、寄贈、書店

販売を考慮して総出版部数を 600 冊から 800 冊と推察している。発売地域から考えると地域に限定されると言わざるをえないが、日本音楽のあり方を提案し、言論を活発にすることにに関して一定の影響力があつたと考えられる。

他方、同時に着目する必要があるのが、楽器の普及である。これに関しては先行研究の「明治期の関西における手風琴の流行」〔無記名 1893〕に詳しい。総合的な研究で、楽器、教授、演奏団体、レパートリーを検討した後、文化史的な状況が述べられる。明治 20 年代、明治 30 年代を通じて手風琴で日本伝統音楽が楽しまれていることが指摘され、活発な楽譜の出版活動が指摘される。また、普及に関しては、明治 26 年に発行された箸尾竹軒『手風琴独案内』に注目し、発行部数が多いことに言及し、重要な役割を果たしたと結論付ける〔高田 1993〕。

本論はこれに加えて、先立って明治 24 年に三木佐助によって発行された『西洋楽譜 日本俗曲集 風琴独案内』が普及に果たした役割を指摘したい。三木は——三木楽器の社長として楽器、楽譜出版に携わった人物だが——『西洋楽譜 日本俗曲集 風琴独案内』の意義を、自伝で次のように回想する。

音楽界に致したる貢献と申す程大きなことでも御座りませぬが〔、〕当楽器店から出版しましたものの中で聊か世に影響を及ぼしたものが二つ三つあるのでござります〔。〕其中で最も著名なものを申し上げます〔。〕——中略——もともと世間多くの人は〔、〕此頃まで西洋の音楽と日本の音楽とは別物であつて〔、〕我歌曲が音譜にのせられやうなどとは少しも考えませぬ〔、〕又そんな本は一冊もなかつたのであります、ところへ出したのが此本でありまして〔、〕端唄や長唄が風琴手風琴などで人に習はずして面白く弾けると申すのですからたまりませぬ〔。〕其流行は忽ちの間に日本全国に広がりまして〔、〕結果は非常に西洋楽器の売行を促し〔、〕手風琴なども其年よりめつきり輸入額を増大しました、またこのやうに楽器が流布いたしますれば随つて俗曲のみでなく種々の唱歌なども演奏する人も多くなり〔、〕唱歌普及の助けにもなつたものでござります〔三木 1902：84〕。

『西洋楽譜 日本俗曲集 風琴独案内』が全国的な手風琴の普及に先鞭をつけ、人々の音楽観を変革して行ったと主張する。また、楽器の普及に伴って日本伝統音楽も普及したことがわかる。

發賣元	印刷者	發行者	初版	再版	三版	四版	五版	六版
大阪心齋橋通北久寶寺町角	六十六番屋敷	大阪市東區北久寶寺町四丁目百六番屋敷	同明治廿四年十二月十八日出版	同明治廿五年六月三十日出版	同明治廿六年十一月二十日出版	同明治廿六年十月十三日出版	同明治廿八年八月五日發行	同明治廿九年八月五日發行
三木書店	谷口黙次	三木佐助						

〔図 1〕『西洋楽譜 日本俗曲集 風琴独案内』奥付（第 6 版）〔永井岩井 1892a：奥付〕

多少の誇張があるのではないだろうか？自己評価という点が気になるが、彼の言葉は出版データからも裏付けることができる。[図1]は同書の第6版の奥付だが、順調な重版が確認できる。また、初版は数千部であった〔永井 1892a:unpaged〕。そして『西洋楽譜 日本俗曲集 風琴独案内』を紐解くと、しっかりと構成され、随所に初学者のための工夫が凝らされていることが見出される。

まず、巻頭言には、本書の狙いをはっきりと記されている。「泰西楽譜の精密にして、便益なることを、広く世に通曉せしめ、初学者をして、簡易捷徑〔しょうけい〕の法に依りて、楽譜を学ばしむるの良策を、普及拡張せざるべからず」〔永井 1892a:5-6〕。楽譜に基く西洋の合理的な音楽の教授システムを賞賛し、翻って日本の教授システムの不合理を嘆き、日本にも西洋のような楽譜システムを普及せたいという狙いである。また、これを実現するために、一般の人々にもわかり易いように執筆されたことが特に記されている。執筆者は大阪陸軍楽隊の永井岩井（選曲）と小島賢八郎（調曲）で⁽⁴⁾、当時、軍楽隊員の幹部は西洋音楽の識者として高い尊敬を勝ち得ていた。これも普及において大きな力添えとなっただろう。

続く楽譜集の部に掲載されているのは、短いふしの文字通りの俗曲である。

《宮さん宮さん》、《高い山》、《助さん小間物》、《金毘羅船々》、《数へ歌》、《梅ヶ枝》、《権兵衛が種蒔》、《来いと云たとて》、《十日恵美須》、《御江戸日本橋》、《推量節》、《琉球節》、《裏の段畑》、《因州因幡節》、《活惚》、《前夜迎花嫁》、《合放連・豊年満作》、《桜見よとて》、《黒髪》、《我が恋》、《こすのと》、《惚て通ふに》、《土堤を通ふるは》、《大津絵節》、《浅くとも》、《慰世節》、《沖の大船》、《御所の御庭》、《紫》、《菜之花》、《都々逸》、《越後獅子》、《福寿草》〔永井 1892a:目次〕

当時の人々にとって馴染み深い楽曲が多数を占める。おそらく、多くの人々は親しみを感じたのではないだろうか。

また、それぞれの楽曲は五線譜と数字譜、それから手風琴のタブ譜で記載されている。〔譜例1〕は《数へ歌》の冒頭部分である。

(ハ調四拍子) (數へ歌) (手風琴曲譜)

数字 字符	{	1, 1, 3, 1,		3-4, 3,		6-4, 4,		3, 3, 1, 3,					
鍵引 押符	{	三 三 四 三		四 四 四		五 四 四		四 四 三 四					
		ひ と つ と や		—————			ひ	と	よ	わ	く	れ	ば

4, 4, 3, 1		7- 0-		4, 4, 3, 1,		7- 1, 7,		6, 7, 1, 1,							
四 四 四 三		三		四 四 四 三		三 三 三		五 四 六 六							
に	ぎ	や	か	で		に	ぎ	や	か	で		と	か	ざ	り

Moderato.

p ヒトツトヤ ヒトヨ アクレバ

〔譜例1〕《数へ歌》〔永井 1892a:5-6〕

数字を利用した記譜法の選択は、おそらく歴史的にもすでに近世以降から邦楽器に関してこういった試みがあることを念頭においてのことだろう。また、手風琴のボタン番号とタブ譜の記号の対照表が掲載されているので、たとえ楽譜の理屈がわからなくても直感的に誰でも簡単にボタンを正しく押えることができる。日本にはこれほどまでに簡単にふしが演奏できる楽器は無かった。録音の無い時代、楽器が弾けない人にとって指で音を辿りながらふしを紡ぎ出すことは、大変な楽しみだったに違いない。

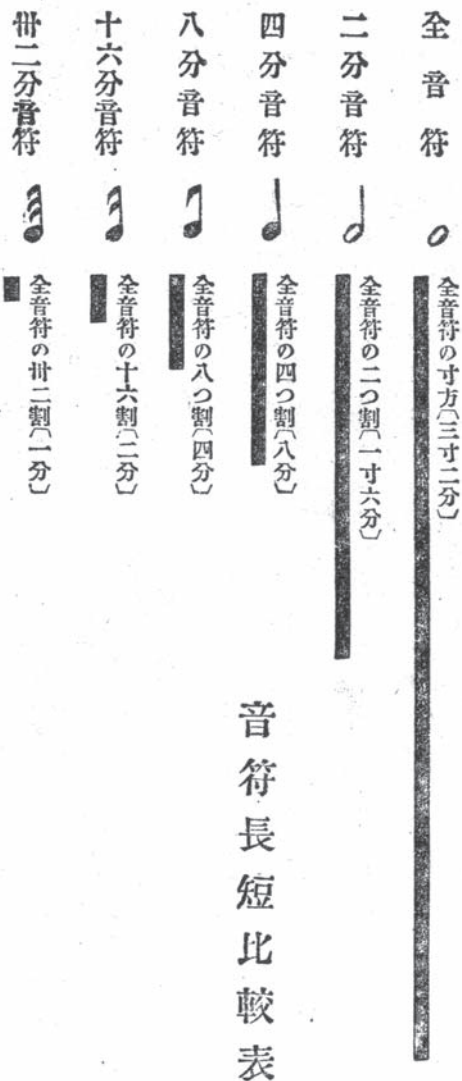
加えて楽器演奏の手引き、読譜法及び楽典解説も明快である。例えば、音価についての説明もよく工夫されている。〔図2〕は、音符の音価が等比級数的であることを図によって直感的に示す説明である。この表さえ覚えれば、全ての音符の音の持続時間を把握することができる。この書物を通じて五線譜の読み方を学んだ人々も少なからずいただろう。また、楽器演奏の手引きはメンテナンスに関する情報までである。

加えて、巻末には手風琴の広告が掲載されていて、通信販売で入手することができるようになっている。西洋音楽がまれな当時、楽器の入手も困難を伴ったと考えられるので、これも重宝されたと考えられる。

拡められたのは簡単な俗曲中心ではあるが、『西洋楽譜 日本俗曲集 風琴独案内』は、初期の日本伝統音楽の普及に大いに貢献したと考えられる。

なお、続編として『西洋楽譜 日本歌曲集 楽器使用法案内』〔永井 1892b〕も発行されている。同じく俗曲中心の選曲であり、同じく五線譜と数字譜とタブ譜を使用した記譜法が採用されて、これに、簡単な楽器操作法が加わる。言及されている楽器は、三弦、胡弓、八雲琴、箏、ヴァイオリン、月琴、清笛、尺八、篠笛。そして、新たな試みとして和洋合奏の楽譜〔譜例2〕と演奏の手引が付随する。これらの試みによって、格段に楽しみ方のヴァリエーションが拡がったに違いない。

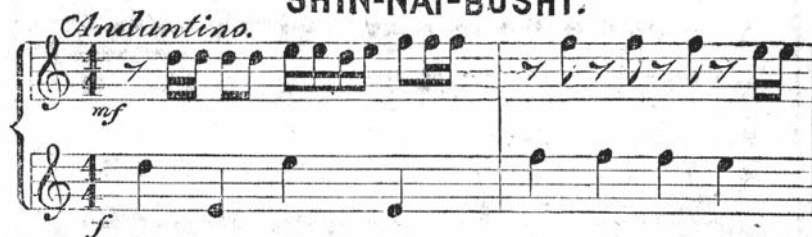
楽譜の普及は地方都市においても認められる。ただし、手放しの大歓迎というわけでもなかった。『音楽雑誌』に寄せられた徳島在住の読者の投稿である。



〔図2〕 音符長短比較表〔永井 1892a : 15〕

新内流(折曲連奏)
(まんないろうごづけ)

SHIN-NAI-BUSHI.



高音〔二上り〕 低音〔本調子〕 (新内流し) (手風琴曲譜)

二人 合奏	高音部	4									
		4	022	22	3323	444	04	04	04	033	
	手風琴	—		☺☺☺	☺☺☺	☺☺☺☺	☺☺☺☺	☺	☺	☺	☺☺
				☺☺☺	☺☺☺☺	☺☺☺☺	☺	☺	☺	☺☺	
低音部	4										
	4	2,	3,	3,	3,	4,	4,	4,	3,		
手風琴	—		☺	☺	☺	☺	☺	☺	☺	☺	
			☺	☺	☺	☺	☺	☺	☺	☺	

〔譜例 2〕《新内流し》〔永井 1892b : 102-103〕

近頃俗楽に関する書冊の刊行夥しく概して淫猥野卑なるものにて之れが為め社会に害毒を流すこと実に甚しからんと信ず、蓋し雅正なる音楽は俗耳に入り難くして淫声は里耳に入り易し、然るに営利の徒其の入り易き所の俗曲を普通の楽譜となし之れを發行するを以て楽譜の一般を味ふもの靡然として之れに移り皆之れを玩弄するに至る、実に慨嘆に堪へざるなり」〔妹尾 1893 : 33〕。

「刊行夥しく」という箇所から、『西洋楽譜 日本俗曲集 風琴独案内』以外にも、徳島において多くのこういった書物が流通していたことがわかる。投稿者は五線譜による俗曲の普及によって、音楽がそれがもともと営まれていた場所から切り離されることを指摘し、近世の倫理がビジネスの論理に駆逐されつつある様を慨嘆する。

手風琴は大阪でも盛んに演奏され、旦那衆に大人気だったようである。

丁度此頃陸軍に居つた甲賀良太郎⁽⁵⁾氏(夢仙と号して現存)が同好者——多くが船場辺りの所謂ボンチ——を集めて此手風琴を教へ初めたのが元で、鼓勇会といふ会を作り、憲法発布⁽⁶⁾の祝賀会には、手風琴の楽隊にブリキ製の太鼓を入れて、盛に市中を練り歩き——略〔林 1928 : 93〕。

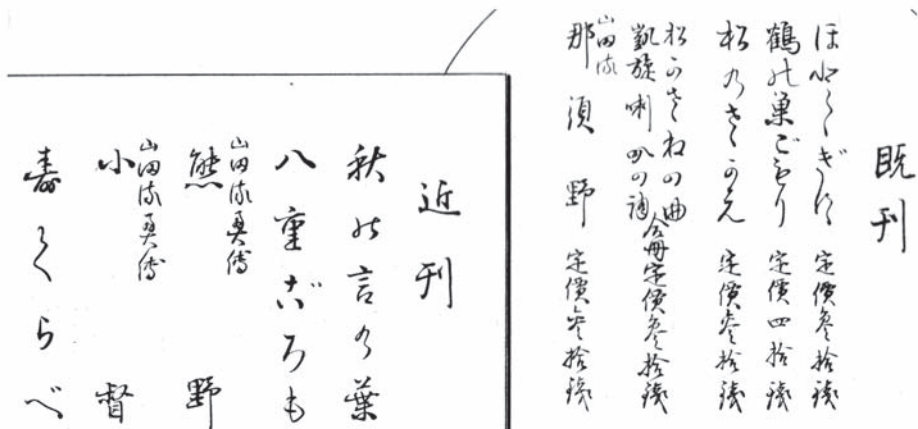
「旦那衆」という言葉から連想されるように、手風琴はそれなりに高価な楽器であった。おそらく手風琴は全国的に普及したに違いないが、ある程度以上の富裕層が購入したと思われる。これに手風琴を通じた日本伝統音楽の普及の限界を認めることもできる。

2 ヴァイオリンの明治末

手風琴に次いで流行するのがヴァイオリンである。大阪の事例に関しては、新聞記事を中心に調査を行った〔塩津 2004〕に詳しい。また、大阪の和洋合奏に関しては〔石原 1993:106-108〕に詳しい。石原は、明治20年代から演奏会が開かれ始め、明治40年頃に増加することを指摘する。〔石原 1993:106-108〕。

他方、楽譜出版からもこれを指摘することができる。この頃から日本伝統音楽のためのヴァイオリンのピース楽譜が大量に発行され始めるからである。明治40年（1907）前後の図書目録から、普及の詳細が明らかになる。

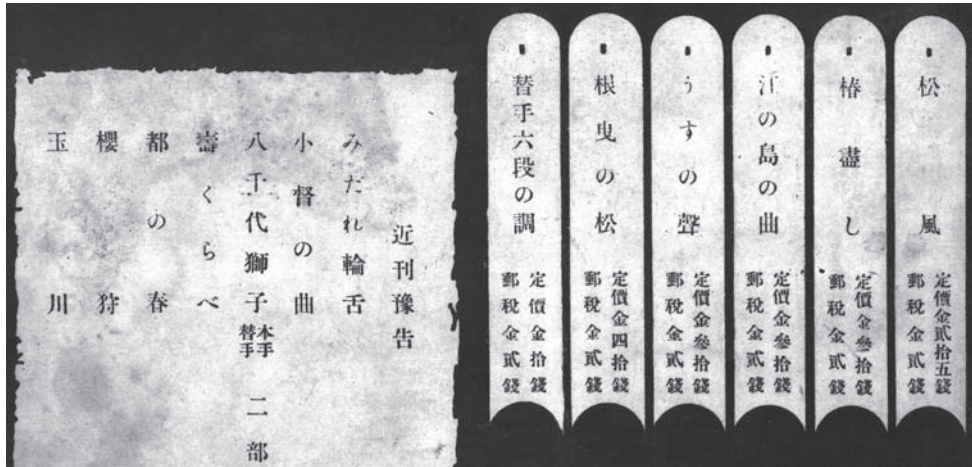
次の一連の図版は明治40年（1907）頃出版された楽譜に掲載された図書目録や楽譜の表3や表4に掲載されている図書目録をまとめたものである⁽⁷⁾。



〔図3〕宝文館出版目録〔無記名 1907：奥付〕

〔図3〕は宝文館が明治40年（1907）に出版した楽譜『箏曲 ホトトギス』の表3で、この時点における宝文館の出版状況が判明する。また、明治40-42年（1907-1909）を発行年として、国立国会図書館に《八重ころも》、《箏曲山田流桜狩》、《箏曲小督の曲》、《箏曲熊野》、《胡弓秘曲鶴の巣ごもり》、《箏曲ホトトギス》の合冊の所蔵があり、近刊リストの順次刊行も判明する。なお、宝文館は大阪と東京とに拠点を持っていた。

〔図4〕は明治40年（1907）の雑誌に掲載された前川書店の目録で、田島羽堂と大村恕三郎によって『箏曲 六段の曲』、『箏曲八段の曲』、『箏曲 松づくし、春のことぶき』が出版されていることがわかる。なお、これらも東京（啓成堂）と大阪（前川書店）という東西の出版社から発売されている。



〔図6〕 十字屋楽器店出版目録〔福島 1908：奥付〕

四世哥澤太夫芝金閣 端唄全集
 福島琢郎 著 六月一日發行
 第一編 春雨御所車
 第二編 梅にも春、惚れて通ふ、蝙蝠
 第三編 金時、八重一重、我が物
 第四編 京の四季、雪は巴
 第五編 紀伊の國、竹になりたや、花の曇
 第六編 松くづし、紅葉の橋
 第七編 露は尾花、おしが思ひ、めぐる日
 以下續々出版 一部 金十五錢
 オルガン獨習之友 金三十五錢
 バイオリン獨習之友 近刊

〔図7〕 十字屋楽器店出版目録
 〔無記名 1910b unpagged〕

摘草 既刊 定價貳拾五錢
 笹の露 (旧名酒) 定價參拾五錢
 (相生の曲) 定價貳拾五錢
 六段 (全奏連應)
 茶音頭 (三奏) 定價貳拾五錢
 以上十二月十日迄發行
 近刊
 千鳥の曲
 八千代獅子 (本調子)
 松上鶴
 墨繪の月
 暖城の秋
 萩の露

〔図8〕 甲賀夢仙ヴァイオリン音譜図書目録
 〔甲賀 1910：表4〕

〔図8〕は明治43年の甲賀夢仙ヴァイオリン音譜『三〔つ〕のけしき』表4の図書目録で、『摘草』、『笹の露』、『相生の曲』、『六段』、『茶音頭』、『三〔つ〕のけしき』が出版されていることがわかる。

これらから指摘できるのは、《六段》を始めとするいわゆる名曲が様々な出版社から挙げて出版されはじめたことである。また、箏曲が目立つことである。日本伝統音楽の楽曲がヴァイオリンに広がってゆく様を確認することができる。手風琴による普及が俗曲中心であったことと対照的である。編者は邦楽家、ピアノ技術者(福島琢郎〔鶴橋 1927：151])、音楽塾経営(町田櫻園)、音楽教師(大村恕三郎〔久保田 1997〕及び田島教恵)と様々で、黎明期の混沌とした文化状況がうかがわれる。また、教授法も同様に多様であった。伝統的な箏曲の教授システムの応用も確認することができる。なお、簡単な教則本の出版も散見されることから、独学によるヴァイオリン学習も行われていたようである。

さらに、流通に関しては、東京と大阪に拠点を持つ出版社が多いことから、これらの二つの都市で広く販売されたことがうかがえる。また、注目したいのは「郵税」という言葉である。日本では早くも明治期から通信販売が盛んに行われていた⁹⁾。楽譜に関する総合的な状況ははっきりしないが、十字屋（京都）においては盛んだったようである。十字屋（京都）では広告入《京都地図》を旅行者に無料で配布し、事業を広く広告して通信販売を宣伝していた。

〔《京都地図》は〕 名所旧蹟はもちろん 十字屋のありかも一目でわかるようにできています
これを企画した初代としては 十字屋に立寄ってもらうだけでなく 旅行の記念にそれぞれ地方へもち帰っていただくのが目的だったので ヤングメンを通じての全国的な宣伝を図ったわけですね

森 十字屋の名が知られると 方々から注文をいただくようになりました 楽譜・楽器・出版物など 地方の本屋からも大量に送れとってこれ 総勢6名が 終日 荷づくりに精を出すこともしばしばでした〔田中 1968:36〕。

ただし、多くの出版社が挙って楽譜を発行する群雄割拠状態は徐々に解消し、中尾都山ヴァイオリン音譜および甲賀夢仙ヴァイオリン音譜〔図8〕および〔図11〕が次々に新曲の楽譜を出版するようになっていった。〔表1〕は、行に年、列にタイトルを設定して楽譜の刷数を整理した中尾都山ヴァイオリン音譜の出版状況である。着実な出版活動を観察することができる。

〔表1〕 中尾都山ヴァイオリン音譜 刷数一覧

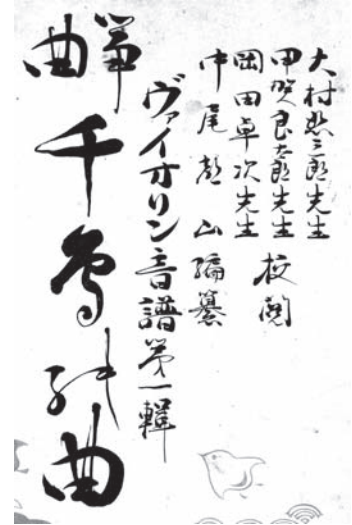
行は出版年、列は楽譜タイトル、表中の数字はそれぞれの楽譜の刷数を示す。イタリック体は現物未確認。

i>

	39	40	41	42	43	44	45,元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
千鳥の曲	1,2	3,4,5	6,7,8	9,10,11	12,13	14,15	16	17,18	19,20	21,22	23,24,25	26,27,28	29,30	31,32,33	34,35,36	37,38				
残月	1			4	5	6			8	9	10	11			13					
春の曲	1	2	3	4	5		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16			
夏の曲		1		2	3			4	5	6	7									
秋の曲			1,2	3		4		5		6			7	8	10					
冬の曲				1		1	2				3	3	4							
鶴の声、ゆき	1	2	3	4	5	6		7	8	9	9	10	11	12						
黒髪、夕空、袖香爐				1	3	3			7	9	11	12	15							
御国の管		1,2		3	4					5	6	7	7							
雪月花				2	3				4	4	5	4	6							
越後獅子		1		4	6				10	11		13	16							
松上鶴			1	2	3				5	6	7	8	9							
新高砂		1			2		3			4		5	5	7						
楓の花		1		1	2			3	3	4	4	5	6	7						
新松竹梅				1					2	2	3	3	4	4						
美だれ		1		2	3				4		5	6	8							
吾妻獅子		1			2				3			4	5							
松風		1					2				3		4						8	
磯千鳥		1			2				3		4		5	6						
さむしろ		1		2					3				4		5	6				7
松竹梅			1	2	3			4		5	6									
夕顔			1	1	2					3		4	4							
松曳の松			1						2				4	4						
巖上松			1		1			2		3	4		5	6						
明治松竹梅			1						2				3	4						
玉川			1		1				2			3	3	5						
萩の露					1				1		2	2	2	2						
萬歳七草			1	2		1		3	4		5	6	7							
八千代獅子		1			2		3	4	5		6,7	8	10							
稚児桜												1	2							
ほととぎす												1	2							
摘草													1	2						
金剛石、水は器													1	2						
椿尽し													1	2						
中尾都山校閲																				
利安無声編																				
茶音頭											1									
銀世界												1								
新鶴の果籠															1		2			
六段															1					
秋の言の葉																				
新玉の曲																				
四季の詠																				
掛枕																				

なお、これらはいずれも大阪を本拠地とする出版社だが、大阪における西洋音楽の隆盛は、西洋音楽の専門知識を持った人々の大阪への移住が関係している。「この頃〔明治40年頃〕奥山朝泰・永井幸次・大村恕三郎・高浜孝一・大橋純二郎等の音楽家が相前後して当地に移住し、或は学校に、或は一般に各々その得意とする所を教授し始め、弦楽器方面が追々勃興して来た」〔大阪市 1934：739〕。

〔図9〕は明治42年（1909）に出版された「中尾都山ヴァイオリン音譜」の第1巻を飾る《千鳥の曲》の楽譜だが、大村恕三郎、甲賀良太郎、岡田卓次監修、中尾都山編纂となっていて、当時の状況がうかがえる。また、明治43年（1910）の『音楽界』には大阪におけるヴァイオリンの大流行を報じる記事が掲載されている。盛んに日本伝統音楽が演奏されていたらしい。



〔図9〕《千鳥の曲》表紙
〔中尾 1909：表4〕

最も俗楽趣味をもてる人士也。試みに一夜、大阪市中を逍遙せんか、何れの巷、何れの街、弦歌洋々として響かざるなしと雖ども、其大半は殆んど、端唄と流行歌とのみ、更に長唄や常磐津のメロデーを聴かざるなり」〔楽峯生 1910：5〕。

ただし、当時広く読まれていた西洋音楽の雑誌『音楽界』では、ヴァイオリンで日本伝統音楽を弾く試みを認めようとはしなかった。盛んに行われていたこうした試みを「誤った」西洋音楽として断罪し、無意味な洋楽と報じた。

例えば次の文章は第1巻4号の巻頭言である。「〔和洋調和楽は〕音楽上より見る時は些^{いささか}の価値をも見出す能はず。音楽としての独立性なく、器楽としても声楽としても其個性なく其存在の意義あるなし」〔無記名 1908：2〕。また、以下の文章は、田辺尚雄の記事からの引用である。

「勿論自分の意見としては、〔洋楽器で日本伝統音楽を演奏する試み〕に不賛成の方であつて、之⁽¹⁰⁾が為めに到底和洋音楽の調和を計るといふことは出来ないのみならず、却て両音楽を共に墮落せしめて、軽薄な、死骸のやうなものに化して了ふのである」〔田辺 1910b：46〕。「軽薄な、死骸のやうなもの」とはかなりの酷評だが、理由は次の通りである。

或一時代に最持離された楽器は疑もなくその時代の音楽趣味の頂点を代表するもので〔、〕その音色は直ちにその時代の人々の心線の響であるといつて可い〔。〕此意味でバイオリンを以て長唄を演奏するなどといふ事は全然無意味だ。バイオリンを日本人が演奏するといふ事が悪いのではない〔。〕バイオリンが全然日本人固有の趣味になつた場合之を演奏するのは差支えないが、之れを以て百年前の日本人の趣味を代表する長唄を演奏するのは間違つてゐるといふのである〔田辺 1910：42〕。

また、田辺は聴き手を次の三つのカテゴリーに分類し、1. 音色又は音其物を味はつて居る人、2. 音楽の構造を味ふ人、3. 音楽の精神を視ひ知る人とし、大部分の人は1. の状態にあり、「斯様な人に限

つてヴァイオリンで六段曲を奏したりピアノで長唄を弾じたりする」〔田辺 1911：55〕と説く。また、1.の人々が動物と似たり寄ったりだと付け加える。「彼等〔動物〕には到底其精神は理解できないので、音の強弱、高低、長短、音色といふ物理的性質から来る生理的作用に満足して居るのである、蓋し食欲の満足と相距ること遠くはあるまい」〔田辺 1911：55〕。洋楽器で日本伝統音楽を演奏することに対する嫌悪感を見て取ることができる。

もちろん田辺の意見に対立する人々もいただろう。しかしながら、すでに著作を幾つも発行していた田辺の学究的な言葉は大きな説得力を持ったと考えられる。

次の引用は東京から大阪に引っ越した体験談であるが、ヴァイオリンで日本伝統音楽に興じることを軽蔑する見解に、東京対大阪、つまり、中央対地方の枠組みが加わる。

先ず東京のきらびやかな音楽環境を次のように描写した後で、

吾人が東京に居た頃は、趣味ある音楽会と云へば、上野楽堂のクラシックな所謂教育的なコンサートを始め明治音楽会の管弦楽、さては日比谷公園の軍楽に至るまで、閑さへあれば殆んど欠かしたことのなかつた方で、或はその荘重なコーラスに或はその豊かなオーケストラの楽の音に、耳傾かるを此上もない楽しみとして居た〔秋葉子 1908：34〕。

大阪の状況を次のように報じる。

大阪の音楽界は如何なる状態にあるかと云ふに、市内の中学又は女学校では学課として音楽を教へた所が肝心の家庭では依然として琴三味線主義で〔、〕一向清新な洋楽の趣味を歓迎しないのは争ふ可からざる事実で〔、〕近来こそヴァイオリン音楽が盛んに流行し来つたことは或は東京以上かも知れぬけれども——中略——吾人が此頃の夕暮市中を散歩すると累々其音を耳にすることがあるが〔、〕彼等の演奏する所は何れも真面目な教則本やクラシック又は。ポピュラー^{〔ママ〕} (11) の作曲でなく〔、〕多くは卑近な俗曲であつて〔、〕音楽会の如きも洋楽のみでは殆んど聴衆がない為めに、政策上曲目の中に舞、手品、軽業、喜劇等を加味する必要であるといふことである〔秋葉子 1908：35〕。

「卑近な俗曲」、「清新な洋楽」という言葉から、筆者の思いの一端を知ることができる。「舞、手品、軽業、喜劇等を加味する必要」も同様である。そして、「依然として琴三味線主義」という言葉からは、新しい「清新な洋楽」対古い「卑近な俗曲」という枠組みが見えてくる。日本伝統音楽を打ち捨てて西洋音楽に邁進することが進歩であるという考え方である。

おそらく、こういった記事が、読者をいわゆる正統的な西洋音楽に駆り立てていったと考えられる。だが、興味深いのは広告欄である。西洋音楽のタイトルに混じって洋楽器のための日本伝統音楽の楽譜が多数掲載されている。

全ての楽譜の広告が西洋音楽のみで占められているのは、『音楽界』の版元の音楽社だけで、十字屋、三木楽器、共益商社といった有力な音楽出版社は、積極的に洋楽器のための日本伝統音楽の楽譜を宣伝する。さらには前川書店といった邦楽の有力出版社も広告を出し、ヴァイオリンのための日本伝統音楽の楽譜を掲載する。需要が見込まれないのに広告を出すとは考えられない。ヴァイオリンのための日本伝統音楽の楽譜に引き合いがあったことが推し量られる。そして実際、ひそかに

楽しまれていたらしい。

目下の所西洋楽器ではヴァイオリンとピアノが流行しています。——中略——お習いになる唄は純西洋のものよりも矢張日本従来の唄を合せるのを御好みになる様で西洋のものは何も其の曲の意味を会得し難いと見えまして覚えるにも日本のものに比べて遅い——中略——お若い方など表面では西洋のものをお好みですが習つても西洋ものは曲の意味を解しかねる所が多く真情は矢張日本のものをお好みの様です〔北村 1910：50〕。

同じく『音楽界』からの引用である。明治末期にピアノを習う人々だから、西洋文化に興味を持つごく一握りの富裕層を観察した言葉と考えられるが、そういった人々でさえいわゆる俗楽趣味を温存していたことが判明する。おそらく庶民層はさらに深く俗曲趣味に浸り、西洋音楽趣味はほとんど無かったのではないだろうか。したがって、東京（中央）に大阪（地方）を対立させて音楽文化の進展状況を強調する記事は、いくらか針小棒大の嫌いがあると言うこともできよう。あるいは同誌に——おそらく他誌（紙）からの転載だと思われるが——明治末の東京音楽学校における演奏会に関して、「聞き手は半分以上が西洋人で他は若い男女ばかり、中には紳士もあるが此手合は見に来る連中、所が先達て富本、一中、常磐津などの邦楽演奏会を催したら今度のお客様は何れも日本の老人計り、若い所でセイゼイ 30 台の人」〔無記名 1911：58〕という報告がある。確かに東京で西洋音楽が活発に行われていたかもしれないが、東京の豊かな邦楽文化もこの文章から判明し、年齢が高くなればなるほど邦楽趣味が盛んであることも判明する。ヴァイオリンを通じて日本伝統音楽が急速な勢いで広がっていったことが推測される。

なお、東京や大阪以外の地域における西洋音楽の普及は、十全に進んでいなかったようである。『音楽界』の彙報欄に地方演奏会の記録や地方都市の状況の報告が散見されるが、例えば明治 41 年（1908）の岡山の音楽界に関して次のような報告がある。

〔音楽学校が無く、指導者がいないので〕音楽を真面目に研究するの志なく徒らに大家の糟粕を嘗むるは未だしも和楽じみたる洋楽等をなす〔。〕例へば六段の調をヴァイオリンにて奏するとか、叙事唱歌を堂々と学校唱歌として教ゆるとか、甚だしきに至りては俗曲を小学校児童の無邪気なるものに授くる等〔支部 1908：42〕。

ヴァイオリンは普及していたが、それをどのように取り扱うのかということに関しては様々な見解が流布していたことがうかがえる。そして、音楽学校や楽器に堪能な指導者のことを思い浮かべるならば——横浜や神戸などの日本に住む外国人の比率が高い地域は別としても——大概の地域は岡山のような状況が広がっていたと考えられる。おそらく、ヴァイオリンを通じて日本伝統音楽は、楽器を越えて着実に普及していったと考えられる。

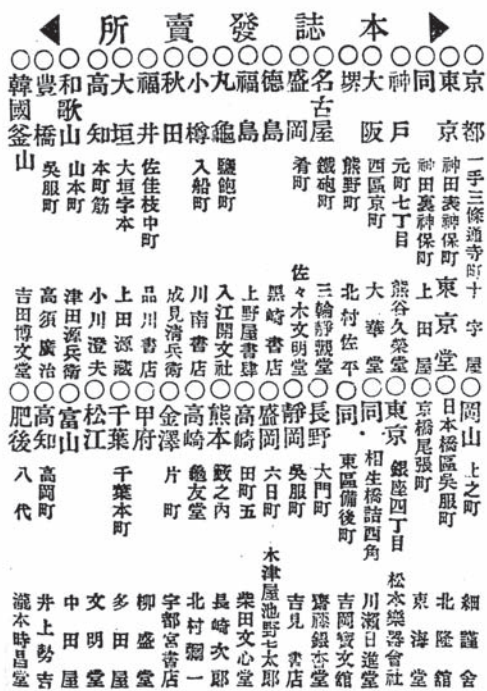
また、『音楽界』ではヴァイオリン独習講座が連載されている。基本から演奏法を解説する企画である。これが暗に示すのは、ヴァイオリンを習いたくても付いて習う先生がいない、あるいは稚拙な技術の先生しか居ないという読者の状況である。他方、『音楽界』には、ヴァイオリン教授について次のような意見が掲載されている。

地方では恰も外国語の独習が困難である如く、西楽の独習も先づ以て不可能といはねばならぬ。地方の音楽教師などが嘗て僅に学び得たる零碎の技術、之を幾度繰返しても、無から有は生せぬ、練習によつて悪癖は付くとも、技術の進歩は望まれない。どうしても善い教師に就く外に上達の道はあるまい〔大久保 1912：46〕。

確かにある意味正論であり、いわゆる正統的なヴァイオリンを学ぼうと考えれば、引用文のような手段をとる必要があるだろう。しかしながら、一体どれだけの読者が地方都市に東京からヴァイオリン教師を呼び寄せたり、あるいは上京して楽器を習いに行ったりすることができたのだろうかと考えると、筆者の地方の音楽文化に対する所見と態度が見えてくる。

加えて『音楽界』は、地方でも相当読まれていた。〔図10〕は明治43年(1910)の『音楽界』発売所である。東京が7箇所もあるのが目を惹くが、北海道から九州、そして外地にまで広く分布していることがわかる。札幌、広島、仙台に代理店が無いとはいうものの、大きな影響力を思い浮かべることができる。

このようなわけで、明治期末の『音楽界』は相反する情報を読者に発信したといえる。すなわち、1.いわゆる純粋な西洋音楽は素晴らしく、これに対して洋楽器によって日本伝統音楽を演奏する試みは邪道の楽しみであるという編集主幹の発するメッセージと、2.洋楽器で日本伝統音楽を演奏することをさも当たり前のように広告欄に登場させる楽譜出版社の意向である。『音楽界』の編集者が思い描き、雑誌に提示した音楽文化のヴィジョンと、楽譜の出版広告から示されるヴァイオリンで日本伝統音楽を演奏する営みの隆盛とは大きなずれが指摘できる。



〔図10〕『音楽界』発売所
〔無記名 1910a : unpagged〕

3 大正期

大正期に入る頃から、『音楽界』では洋楽器で日本伝統音楽を演奏する試みや和洋合奏についての言及が少なくなる。増加するのは西洋音楽や音楽教育に関する記事である。また、次の引用は大正4年(1915)頃の大阪の様子だが、西洋音楽の進展が報告される。「在来の中流以上の家庭の子女は多く好んで和曲を稽古したものであるが今では殆んど洋曲に限られて居て襖太利の名曲《ドナウ河の漣》、《バリエーション》などが持囃される」〔無記名 1915：92〕。

和洋合奏の演奏法自体も変化しつつあったらしい。和洋合奏のための楽譜シリーズとして大正4年(1915)に出版されたフジキ楽譜の《春雨》の巻頭言である。

余^{〔つらつ〕}熟ら楽界の傾向を見るに和曲の単音合奏時代といふものは既に過去の夢となりて今や複音合奏の時運に到達せるならんと痛切に感ずるもの也〔。〕茲に於てか余は先づ本曲を編したり。

本編は主旋律の趣味が変ぜざる程度に於て複音の構成を試みたるものなり〔。〕されど単にヴァイオリン二部の合奏をなすも敢て妨げなかるべし〔藤木 1915：unpaged〕。

三曲合奏のような和洋合奏が古び始めていることが指摘される。提案されるのは合奏の革新で、〔譜例3〕はフジキ楽譜から出版された《元禄花見踊》の冒頭の部分である。

第一ヴァイオリン 元 藤 花 見 踊 藤木喜太郎編

〔譜例3〕《元禄花見踊》〔藤木 1915：unpaged〕

また、下記プログラムはフジキ楽譜の版元として記載されている大阪ヴァイオリン倶楽部による演奏会プログラムである。大正5年（1916）に開催されたものだが、ここでも西洋音楽の進展が指摘できる。そして《十日戎》、《かつぼれ》、《ほととぎす》の三部合奏が行われていることもわかる。

大阪ヴァイオリン倶楽部第3回演奏会は大正5年（1916）5月28日（日曜日）午後6時半会場於天王寺公会堂同7時開場演奏曲目左の如し

- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| 1. 弦楽合奏（歌謡曲）甲オーバリーヌイ、乙ハレルヤ、倶楽部員 | 野八重子、岩淵清一 |
| 2. 和曲ヴァイオリン三部、甲十日戎、乙かつぼれ、男子部員 | 8. 合唱（弦楽伴奏）港の千鳥、倶楽部総員
休憩 |
| 3. ヴァイオリン独奏、金婚賀筵、柳谷きぬ子 | 9. 弦楽合奏（接続曲）愛国歌謡（エツケルト作）倶楽部員 |
| 4. 弦楽合奏（行進曲）アマゾンマーチ（ミカエリス作）倶楽部員 | 10. 和曲ヴァイオリン二部、春雨、女子部員 |
| 5. 合唱、友の別れ、声楽部員 | 11. ヴァイオリン独奏、スリートホーム、バリエーション、石原嘉三郎 |
| 6. 箏曲ヴァイオリン三部、ホトトギスの曲、倶楽部員 | 12. 合唱（弦楽伴奏）春風、倶楽部総員〔無記名1916：73〕 |
| 7. ヴァイオリン二部、シンフォニー（モレット作）矢 | |

大正4年（1915）の『音楽界』に大阪ヴァイオリン倶楽部が紹介されていて、当時の状況がさらに詳しく判明する。「倶楽部には大阪に於ける上中流一部の子女を網羅して得て皆熱心に研究して

る」〔無記名 1915:92〕ることから、ヴァイオリンがある程度以上の暮らしぶりの家庭に浸透していることが判明する。手風琴が旦那衆だったことを思い起こすと、女性への浸透はさらに広範囲に亘る西洋音楽の浸透が推し量られる。「ここ数年前までは大阪でもヴァイオリンを学ぶものは或る一部に限られていたものが2年許り前から俄に之が修業者が激増して今では頗る盛んになつて来てゐる。〔。〕目下大阪でヴァイオリン教授の看板を掲げてゐる者は約八九十名あるが実は何れも正式な科程に拠つて教授する者は極く少く其多くは楽隊出の人か或は単独研究者等が手内職にやつて居るのだ」〔無記名 1915:92〕という個所からは、明治期に勝るとも劣らない大正期のヴァイオリンの流行が判明し、ヴァイオリン教室の多くが半ばアマチュアの人々によって支えられていたことがわかる。また、この時期になつても、ヴァイオリンの専門家はごく少なかったようである。「先づ正式な科程によつてゐるのは相愛女学校附属女子音楽学校教師大村恕三郎氏、市岡中学校音楽教師大橋純二郎氏などはそれである、女学校でヴァイオリンを教へて居るのは夕陽丘女学校（多梅稚氏担当）位であるがそれでも随意科であるが西区の女子手芸学校ではヴァイオリン科と云ふ特別科が設けられて之が正科になつてゐる（藤木喜太郎氏担当）〔。〕ヴァイオリンを正科にして居る学校は関西には唯だ此手芸学校あるのみである」〔無記名 1915:92〕。

注目したいのが、「正式な科程に拠つて教授する者は極く少く」及び「修業者が激増」という件であり、示されるのは、ヴァイオリンで日本伝統音楽を楽しむ人々の増加である。これは楽譜出版からも示され、再度〔表1〕で大正期の状況を概観するならば、順調に版を重ねていることが指摘できる。とりわけ『千鳥の曲』の売れ行きは驚くべきものである。

また、甲賀夢仙ヴァイオリン音譜も発売タイトルの大幅な増加を見て取ることができる。

○ ○ ○ ○ ○	岸宇八御遊宮柱大今以京名反夏維全企長青鶴	明と	千鳥	つ鶴	武	梅	春	雲	子
四	治山雀	の	の	の	の	の	の	の	の
残	の	巡	の	の	の	の	の	の	の
夕	の	の	の	の	の	の	の	の	の
五	の	の	の	の	の	の	の	の	の
返	の	の	の	の	の	の	の	の	の
き	の	の	の	の	の	の	の	の	の
ぬ	の	の	の	の	の	の	の	の	の
ね	の	の	の	の	の	の	の	の	の
音	の	の	の	の	の	の	の	の	の
大	の	の	の	の	の	の	の	の	の
空	の	の	の	の	の	の	の	の	の
た	の	の	の	の	の	の	の	の	の
音	の	の	の	の	の	の	の	の	の
曲	の	の	の	の	の	の	の	の	の
十	の	の	の	の	の	の	の	の	の
数	の	の	の	の	の	の	の	の	の
曲	の	の	の	の	の	の	の	の	の
全	の	の	の	の	の	の	の	の	の
全	の	の	の	の	の	の	の	の	の
全	の	の	の	の	の	の	の	の	の
全	の	の	の	の	の	の	の	の	の
定	の	の	の	の	の	の	の	の	の
價	の	の	の	の	の	の	の	の	の
廿	の	の	の	の	の	の	の	の	の
五	の	の	の	の	の	の	の	の	の
銭	の	の	の	の	の	の	の	の	の
四	の	の	の	の	の	の	の	の	の
拾	の	の	の	の	の	の	の	の	の
五	の	の	の	の	の	の	の	の	の
銭	の	の	の	の	の	の	の	の	の
四	の	の	の	の	の	の	の	の	の
拾	の	の	の	の	の	の	の	の	の
五	の	の	の	の	の	の	の	の	の
銭	の	の	の	の	の	の	の	の	の
四	の	の	の	の	の	の	の	の	の
拾	の	の	の	の	の	の	の	の	の
五	の	の	の	の	の	の	の	の	の
銭	の	の	の	の	の	の	の	の	の

〔図 11〕 甲賀夢仙ヴァイオリン音譜図書目録〔甲賀 1912:表4〕⁽¹²⁾

さらに、大塚寅蔵による『ヴァイオリン独まなび』〔図 12〕は十字屋から出版されていた独習書であるが、収録曲にかなりの割合で日本伝統音楽を含む。また、順調に版を重ねていることが確認できる。大正 13 年（1924）発行の本書の目次と奥付は次の通りである。

《君が代》、《紀元節》、《天長節》、《新年》、《歳暮閉校式》、《兎と亀》、《桃太郎》、《タローマーチ》、《リータンポリン》、《数へ歌》、《高ひ山》、《金比羅船々》、《梅が枝》、《推量節》、《宮さん宮さん》、《新四季》、《東雲節》、《喇叭節》、《春雨》、《かつぼれ》、《黒かみ》、《六段》、《ナンテまがいんでしょ》、《越後獅子》、《梅にも春》"Auldlang Syne", "Old Folks at Home", "Last

		(定価) (送料)				(定価) (送料)		
長唄楽譜	第一編 勸進帳	北村先生	1.200 .040	常盤	(舊八千代獅子)	共益商社	.200 .020	
"	第二編 鶴龜	"	1.200 .040	吾妻八景	(ヴァイオリン 三味線合奏)	"	.600 .080	
"	第三編 越後獅子	"	1.200 .040	花か	第一編 {大内山黒がみ羅 波獅子夕顔六段 の調春の田家}	館田先生	400 .060	
"	第四編 老松	"	1.200 .040	たみ		"	.400 .060	
"	第五編 元祿おどり	"	1.200 .040	"		第二編 {八千代獅子、千 鳥、ゆき、みだれ 末の舞}	"	.400 .060
"	第六編 道成寺	"	1.200 .040	"		第三編 {松風の曲、茶の 湯音頭、春の調 さらし}	"	.400 .060
"	第七編 小鍛冶	"	1.200 .040	"		第四編 {高砂 吾妻獅子}	"	.400 .060
"	第八編 吾妻八景	"	1.200 .040	"		第五編 {江のしま、越後 獅子、那須野}	"	.400 .060
"	第九編 秋の色種	"	1.200 .040	"	第六編 {千里の梅、 櫻狩、松竹梅}	"	.400 .060	
叙事唱歌	第一編 須磨の曲	"	.300 .040	古今雑曲集	全二冊	四竜先生	.500 .080	
"	第二編 離れ小島	"	.300 .040	撰新ヴァイ オリン曲集	卷一	北村先生	.300 .040	
"	第三編 露營の夢	"	.300 .040	"	卷二	"	.300 .040	
邦楽全	第一編 {七福神、浦島 山姥}	"	.500 .040	お伽 歌劇	ドンブラコ律奏附	合本 1.250 .080 分本各 .250 .040		
"	第二編 {猿舞、寺子屋 子寶三番}	"	.500 .040	"	聲音の部	合本 .750 .080 分本各 .150 .020		
"	第三編 {安宅、 梅の春}	"	.500 .040	世界のオペラ		柴田先生	1.500 .120	
"	第四編 {ちくま川、花が たみ、嵯峨園お室}	"	.500 .040	露の輝き	卷一	外山林先生	.250 .020	
"	第五編 {喜撰、 八千代獅子}	"	.500 .040	マンドリン獨習		比留間先生	1.300 .120	
"	第六編 {舌出三番叟 六段の調}	"	.500 .040	カード楽譜	(毎月十五日一回發行)		.050 .020	
都之春		鍋島侯爵作歌	.500 .060					
箏曲地久節			.500 .060					

〔図 13〕 共益商社目録〔北村 1919：表 3〕



〔図 14〕 香川県立丸亀高等女学校第 2 回音楽大会〔無記名 1921：unpaged〕

くくられる。

ヴァイオリン部

- 1.《春雨》(3部) 本庄、西殿、中野松、魚谷、青木
- 2.《イタリアンポルカ》(2部) 青木、中野勇、本庄、西殿、中野松、多田、池、新家
- 3.《大戦記念》(2部) 西殿、新家、本庄、中野勇
- 4.《黒人ダンス》(3部) 中谷、坂東
- 5.《敷島行進曲》(3部) 新家、坂東、多田、青木
- 6.《軍隊ラッパ》、《三十三間堂》、《深川》(総員)

ハーモニカ部

- 1.《晩鐘》 深田正一
- 2.《かつぼれ》 橋本清吉

3.《野崎村》 井上喜代一

- 4.《スペイン風の舞踏》 福永好郎
- 5.《天国と地獄》 大谷友三郎
- 6.《美しき流れ》 総員
- 7.《野辺のタムレ》 総員
- 8.《ブーランゲル将軍》(三重奏) 福永、井上、橋本
- 9.《軍艦マーチ》 総員

ハーモニカ ヴァイオリン マンドリン合奏曲

- 1.《ス井一トホーム》
- 2.《君ヶ代マーチ》
- 3.《六段調》

各地の状況を調査すれば、こういった事例が続々と見つかる。いわゆる『独稽古』を入手して技術を身につけようとした人々もかなりの数に上ると考えられ、日本中でヴァイオリンで日本伝統音楽を演奏する試みが行われていたのではないだろうか。

大正12年頃(1923)の三木楽器の音楽書[通信販売]総目録を開いてみるとその多彩さに圧倒される。

<http://infocage.music.coocan.jp/denonkiyou701.pdf> [無記名 [1923]]

当然のことながら目立つのは西洋音楽の進展である。しかし、注目されるのは明治期に出版されたヴァイオリンのための日本伝統音楽のための楽譜もそっくりそのまま掲載されていることである。北村季晴の長唄楽譜⁽¹⁵⁾や中尾都山ヴァイオリン音譜、甲賀夢仙ヴァイオリン音譜まで、大量の楽譜を見出すことができる。

4 まとめ

手風琴は一時的な流行だったかもしれないが、楽譜出版から見ると、ヴァイオリンで日本伝統音楽を演奏する試みは、少なくとも大正期を通じて、盛んに行われていたと考えられる。レパートリーも豊かになり、多くの人々が身分を越えて日本伝統音楽に親しみ、大いに普及したのではないだろうか。また、資料が少ないので断言することはできないが、町村部においては、かなり遅くまでこの種の試みが行われたと考えられる。

他方、主要な音楽雑誌の言論はこれに平行しない。確かに黎明期には積極的に和洋折衷を唱道していたが、明治末を境に急激に変化し、ヴァイオリンで日本伝統音楽を演奏する試みは「誤り」とされ、排除され、議論から消えてゆく。『音楽界』は広告欄で現状を見せつつ、田辺尚雄、小松耕輔といった人々のヴィジョンを全国に住む読者に掲げていく。

課題として残るのは、大正中期から昭和前期頃から徐々に普及し始めた、レコードやラジオによる音楽を聴く楽しみがどのように演奏の楽しみを変えていったのかということである。

だが、同時に指摘できるのは、全ての日本伝統音楽がこの傾向に組み入れられていったというわけではないということである。例えば、謡や琵琶楽が積極的に洋楽器で演奏されることは無かった。どちらも語られる言葉に重きが置かれた音楽であり、洋楽器によるふしの解体が不毛であるという判断が行われたと考えられる。この意味で、大正期の琵琶の流行は示唆的であり、反動と見なす可能性があるだろう。

注

- 1 〔細川 1990〕を参照。
- 2 引用文中の「調和楽」とは「西洋楽器の孰れかを以て本邦楽を演奏する」〔無記名 1908:7〕という意味である。
- 3 『音楽雑誌』による四箏の活動は、〔日下 1998:55-73〕及び、〔日下 2000:41-59〕に詳しい。
- 4 所属の典拠は〔中村 1996:293〕による。
- 5 甲賀良太郎（1867～?年）。陸軍軍楽隊で音楽を学ぶ。退役後に大阪に住み、西洋音楽の普及に尽した〔鶴橋 1927:95-96〕。
- 6 明治22年（1889年）に大日本帝国憲法が制定された。
- 7 〔図13〕の共益商社の目録も参照。
- 8 大正元年（1912年）発行の第3版による。
- 9 〔黒住 1993〕によると、日本においてはすでに明治期から書物の通信販売が活発に行われていた。
- 10 西洋音楽と日本伝統音楽は異質で相容れないという認識。
- 11 「ポピュラー」の誤字と考えられる。
- 12 大正9年（1920）発行の第11版による。
- 13 大正10年（1921）に出版された山田源一郎の『楽譜の読み方』は大正13年の時点で第41版を数える。五線譜の読み方も急激なスピードで広がっていたと考えられる。
- 14 〔上野 2011〕参照。
- 15 〔奥中 2010〕参照。

参考文献

- 秋葉子「大阪の音楽会所感」『音楽界』第1巻6号、1908年、pp.34-36。
- 石原睦子「明治期関西におけるヴァイオリン受容の様相 和洋折衷現象について」『音楽研究』第11巻、大阪音楽大学音楽博物館、1993年、pp.101-110。
- 上野正章「大正期の日本における通信教育による西洋音楽の普及について 大日本家庭音楽会の活動を中心に」『音楽学』第56巻第2号、日本音楽学会、2011年を参照。
- 大久保栄声「田園趣味と音楽者」『音楽界』第5巻1号、1912年、pp.45-46。
- 大阪市『明治大正大阪市史 第1巻 概説篇』日本評論社、1934年。
- 大塚寅蔵『ヴァイオリン独学び』十字屋楽器店、1905年。
- 奥中康人「五線譜というメディアの登場——北村季晴にとって『採譜』は何を意味したか」後藤静夫編『近代日本における音楽・芸能の再検討 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究報告5』参照。
- 小塩さとみ「数字譜の歴史」『大正琴図鑑』金子敦子監修、全音楽譜出版社、2003年、pp.140-150。
- 後藤静夫編『近代日本における音楽・芸能の再検討 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究報告5』京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、2010年、pp.81-90。
- 楽峯生「関西の音楽」『音楽界』第3巻6号、1910年、pp.5-7。
- 加藤庸三『日本音楽沿革史』松本楽器合資会社出版部、明治42年。
- 北村初子「家庭に適する音楽」『音楽界』第3巻7号、1910年、pp.50-51。
- 久保田敏子「近代音楽の濫觴 箏曲教育の周辺」『奈良教育大学教育資料館だより』第4号、奈良教育大学、1997年、http://www.nara-edu.ac.jp/LIB/material/topic4_3.htmを参照。
- 甲賀良太郎〔夢仙〕『三〔つ〕のけしき』関西音楽団、1910年。
- 甲賀良太郎〔夢仙〕『箏曲 ホトトギス』関西音楽団、1912年。

- 塩津洋子「明治期関西ヴァイオリン事情」『大阪音楽大学音楽博物館年報』第20巻、大阪音楽大学音楽博物館、2004年、pp.11-38.
- 四竈仙花「音楽改良一斑」『音楽雑誌』第38号、音楽雑誌社、1893年、p.1-2.
- 四竈仙花「音楽改良一斑（承前）」『音楽雑誌』第39号、音楽雑誌社、1893年、p.1-2.
- 支部「地方楽況 岡山楽界一斑」『音楽界』第2巻3号、1908年、p.42-43.
- 妹尾繁松「音楽実施に就ての注意」『音楽雑誌』第67号、音楽雑誌社、1893年、pp.32-33.
- 高田知子「明治期の関西における手風琴の流行」『音楽研究 大阪音楽大学音楽研究所年報』第11巻、大阪音楽大学音楽研究所、1993年、pp.53-78.
- 田中昌雄編『音楽100年表 十字屋十話』十字屋楽器店、1968年。
- 田辺尚雄 a「東西音楽の比較」『音楽界』第3巻5号、1910年、pp.41-44.
- 田辺尚雄 b「日本音楽を西洋楽器で奏することに就て」『音楽界』第3巻11号、1910年、pp.46-48.
- 田辺尚雄「音楽の鑑賞法」『音楽界』第4巻3号、1911年、pp.54-56.
- 鶴橋泰二編『現代音楽大観』日本名鑑協会、1927年。
- 永井岩井、小島賢八郎『西洋楽譜 日本俗曲集 風琴独案内』三木書店、1892年（第3版）。
- 永井岩井、小島賢八郎『西洋楽譜 日本俗曲集 風琴独案内』三木書店、1892年（第6版）。
- 永井岩井、小島賢八郎『西洋楽譜 日本歌曲集 楽器使用法案内』三木書店、1892年。
- 中尾都山「ヴァイオリン音譜第1輯 箏曲 千鳥の曲」竹琳軒、1903年、表4.
- 中村理平『キリスト教と日本の洋楽』大空社、1996年。
- 林亘「大阪と洋楽 1」『大大阪』昭和3年8月号、1928年、pp.91-95.
- 日下昭夫「『音楽雑誌』に見る四竈訥治の啓蒙活動とその広がり——受容の視点から（その1）」『青森明の星短期大学紀要』第24巻、青森明の星短期大学、1998年、pp.55-73.
- 日下昭夫「『音楽雑誌』に見る四竈訥治の啓蒙活動とその広がり——受容の視点から（その2）」『青森明の星短期大学研究紀要』第26巻、青森明の星短期大学、2000年、pp.41-59.
- 福島琢郎『ヴァイオリン楽譜 六段の調』十字屋楽器店、1908年（1909年再版による）。
- 藤木喜太郎『和曲春雨 ヴァイオリン三部合奏 第1編』ヴァイオリン倶楽部、1915年。
- 細川周平「日本の芸能100年 流行歌（32）西洋音楽の日本化・大衆化12 アコーディオン」『ミュージック・マガジン』第22巻3号、ミュージック・マガジン社、1990年、pp.92-97.
- 町田櫻園『ヴァイオリン楽譜 長唄 道成寺』林盛林堂、1907年（1912年第3版）。
- 三木佐助『玉淵叢話』開成館、1902年。
- 三木陸子「明治期関西におけるヴァイオリン受容の様相 和洋折衷現象について」『音楽研究 大阪音楽大学音楽研究所年報』第11巻、大阪音楽大学音楽研究所、1993年、pp.101-110.
- 無記名「音楽普及比較表」『音楽雑誌』第36号、音楽雑誌社、1893、p.15.
- 無記名『箏曲 四季の詠』田島教恵編、啓成堂・前川書店、1907年。
- 無記名「和洋調和楽の意義とその価値」『音楽界』第1巻4号、1908年、pp.7-10.
- 無記名 a「本誌発売所」『音楽界』第3巻4号、1910年、unpaged.
- 無記名 b「西洋楽器及音楽書類 十字屋楽器店」『音楽界』第3巻4号、1910年、unpaged.
- 無記名「日本人の楽耳」『音楽界』第4巻3号、1911年、p.58.
- 無記名「大阪ヴァイオリン倶楽部」『音楽界』第170号、音楽社、1915年、p.92.
- 無記名「[大阪ヴァイオリン倶楽部第3回演奏会]」『音楽界』第177号、1916年7月、p.73.
- 無記名『鶴亀』北村季晴[採譜]、共益商社、1919年。
- 無記名『香川県立丸亀高等女学校第2回音楽大会』（絵葉書）[香川県立丸亀高等女学校]発行、1921年。
- 無記名『三木楽器店 音楽書総目録』[三木楽器編]、開成館三木楽器店、[1923]年。
- 無記名『淡路音楽協会 創立記念大演奏会』淡路音楽協会、1927年。
- 無記名『世界名曲の泉 音楽譜総目録』親弦楽譜出版社、1928年。

The diffusion of Japanese traditional music caused by sheet music : Playing Japanese traditional music with Western musical instruments from the middle Meiji period to the Taishō period

UENO Masaaki

Playing Japanese traditional music with Western musical instruments was regarded as a temporary movement in the Meiji period and not much attention has been paid to it in the history of Japanese modern music. However, without this attempt, Japanese traditional music would have remained a feudalistic cult entertainment. In investigating sheet music of Japanese traditional music for western musical instruments published from the middle Meiji period to the Taishō period, I will illustrate the reorganizing and diffusion process of Japanese traditional music.

Firstly, I will survey the boom in accordions and the bestseller music book, *Nihon zokkyoku shū* (Japanese popular music) and show how this book made it possible for Japanese traditional music to continue into the middle of the Meiji period. Secondly, I will survey the boom in violins and sheet music of Japanese traditional music written for the violin. I will illustrate the performing practice of this music from the late Meiji period to the Taishō period.

Keywords: violin, publishing, Osaka, “Ongakukai”, NAKAO Tozan

このページから最終ページまで（pp. 1-23）は、紙数の都合により、刊行物には掲載しなかった参考資料である。あわせてご覧いただきたい。

『三木楽器店 音楽書総目録』[三木楽器編]、開成館三木楽器店、[1923]年、凡例と pp. 1-33 の復刻。

1. タイトルと著者名その他をコロンで区切った。
2. 旧漢字は新漢字に直した。
3. 併記されている本の定価はこれを省略した。
6. 雑誌は省略した。
4. 元データに出版社名と発行年の記載はない。
5. 補足は[]で記した。

凡例

此の目録に載つて居ります書籍は弊店の出版に係るものは勿論全国に於て出版されたるもの大部分で[,]現在弊店で販売されて居るもので御座います。

此の目録編纂当時品切改版中又は新刊印刷中のもので其後出来たものも沢山御座います。又目録に登載洩れのものでも御注文下されば早速お揃へ致します。

此の目録に記載のものは内地ものだけにて海外出版のものも左記の通り揃へて居ります[。]そして目録も夫々造つて居ますから御請求下さい[。]

外国音楽書

独逸：ビーター楽譜。オイレンブルヒスコア楽譜。プライトコツフ楽譜。ユニヴァーサル楽譜。

米国：シヤマー楽譜。カールフイツシャー楽譜。アツプルトン楽譜。モトスポプユラー楽譜。オリバーデッソン楽譜。

◆音楽書及辞書
書名、著者又ハ編者
音楽辞書、吉田恒三
音楽とその大家、ルビンシュタイン著 馬場二郎訳
シヨパンの名曲、クレツエンスキー著 馬場二郎訳
ピアノ演奏法、ヴァンテイン著 馬場二郎訳
音楽の原理、田辺尚雄
西洋音楽講話、田辺尚雄
西洋音楽史講、富尾木知佳
世界のオペラ、柴田環
世界に有名なる歌劇梗概、富士出版社
日本音楽講話、田辺尚雄
西洋音楽史大要、田辺尚雄
ピアノ名曲解説弾き方聞き方、白山清太郎

音楽の聴き方、小松耕輔
西洋音楽の知識、小松耕輔
最近科学上より見たる 音楽の原理、田辺尚雄
音楽の常識、前田三男
パツハよりシエンベルヒ、大田黒元雄
続パツハよりシエンベルヒ、大田黒元雄
洋楽夜話、大田黒元雄
続洋楽夜話、大田黒元雄
近代音楽精髓、大田黒元雄
水の上の音楽、大田黒元雄
卓上楽話、大田黒元雄
音楽日記抄、大田黒元雄
第二音楽日記抄、大田黒元雄
第三音楽日記抄、大田黒元雄
微笑と嘲笑、大田黒元雄
歌劇大観、大田黒元雄
名曲大観、大田黒元雄
デピユツシイ以後、大田黒元雄
ロシヤ音楽小史、プーザン著 湯浅永年訳
韻文講話、山本茂
ピアノの弾き方、牛山充
独唱の仕方、牛山充
ヴァイオリンの奏法、アウワ著 馬場二郎訳
詩人の恋[: シューマン歌曲集]、馬場二郎[著]
音楽教養の序説、オドラフオレエ著 大沢章訳
西洋音楽十二講、前田三男
声楽研究法、白眉社
オペラの話、白眉社
ピアノの習ひ方、白眉社
オーケストラの話、白眉社
音楽解説辞典、白眉社
音楽の聴き方、白眉社
ヴァイオリンの習ひ方、白眉社
歌劇名作物語、白眉社
小謡作曲法、白眉社
マンドリンギター の弾き方、白眉社
音響学の話、白眉社
音楽指揮法、白眉社
喜歌劇物語、白眉社

西洋音楽小史，白眉社
簡易作曲法，山田耕作
◆楽典及和声学
師範学校 楽典教科書，開成館音楽課
近代楽典大要，音楽研究会
普通楽典大要，開成館音楽課
普通楽典教本，開成館音楽課
近世楽典教科書，田中正平校 田村虎藏著
初等 楽典教科書，山田源一郎著 多梅稚著
近世和声学講話，山田耕作
初等和声学，島崎赤太郎著 福井直秋著
和声学教科書，島崎赤太郎著 福井直秋著
楽譜の知識，白眉社
本譜早学び，白眉社
簡易和声学，白眉社
略譜より本譜へ，水谷式夫
◆音楽教科書
中等教育 模範唱歌 1，楠美恩三郎
中等教育 模範唱歌 2，楠美恩三郎
中等教育 模範唱歌 3，楠美恩三郎
中等教育 模範唱歌 4，楠美恩三郎
女子音楽教科書 1，永井幸次 田中銀之助
女子音楽教科書 2，永井幸次 田中銀之助
女子音楽教科書 3，永井幸次 田中銀之助
女子音楽教科書 4，永井幸次 田中銀之助
女子音楽教科書補習，永井幸次 田中銀之助
女子音楽教科書教師用 1，永井幸次 田中銀之助
女子音楽教科書教師用 2，永井幸次 田中銀之助
女子音楽教科書教師用 3，永井幸次 田中銀之助
女子音楽教科書教師用 4，永井幸次 田中銀之助
女子音楽教科書教師用補習，永井幸次 田中銀之助
新撰音程教科書，開成館音楽課
音程視唱教本，山田耕作
子女教育 音楽教科書 1，音楽研究会
子女教育 音楽教科書 2，音楽研究会
子女教育 音楽教科書 3，音楽研究会
子女教育 音楽教科書 4，音楽研究会

子女教育 音楽教科書伴奏付教師用全 2，音楽研究会
実科女学唱歌上，開成館音楽課
実科女学唱歌中，開成館音楽課
実科女学唱歌下，開成館音楽課
実科女学唱歌伴奏，開成館音楽課
中等音楽教科書乙 1，北村季晴
中等音楽教科書乙 2，北村季晴
中等音楽教科書乙 3，北村季晴
中等音楽教科書乙 4，北村季晴
中等音楽教科書伴奏付甲 1，北村季晴
中等音楽教科書伴奏付甲 2，北村季晴
中等音楽教科書伴奏付甲 3，北村季晴
中等音楽教科書伴奏付甲 4，北村季晴
音程教本，福井直秋
音程教本伴奏譜，福井直秋
◆唱歌教授法
唱歌教授法，幾尾純
小学唱歌教授の改善方案，内藤俊二
現今唱歌教授欠陥，園山民平
新撰小学唱歌教授法，石原重雄
尋常小学唱歌教授提要上，福井直秋
尋常小学唱歌教授提要中，福井直秋
尋常小学唱歌教授提要下，福井直秋
バートン唱歌教授[之]研究，山本正夫 [秋山昇]
◆学校唱歌
標準小学唱歌 小学生の歌 1 卷，山田耕作作曲 三木露風詩
標準小学唱歌 小学生の歌 2 卷，山田耕作作曲 三木露風詩
標準小学唱歌 小学生の歌 3 卷，山田耕作作曲 三木露風詩
標準小学唱歌 小学生の歌 4 卷，山田耕作作曲 三木露風詩
新編 教育唱歌集，教育音楽講習会
小学唱歌 オルガンピアノ楽譜，開成館音楽課
小学唱歌 進行曲集，開成館音楽課
祝日唱歌伴奏楽譜，開成館音楽課

教育幼稚唱歌集，園山民平
新作幼稚園唱歌，開成館音楽課
外国国歌歌集，長橋熊次郎
小学唱歌初編，音楽取調係
小学唱歌2編，音楽取調係
小学唱歌3編，音楽取調係
幼稚園唱歌，共益商社
中学唱歌，東京音楽学校
中等唱歌，東京音楽学校
中等教育唱歌集，山田源一郎
最新中等唱歌集，天谷秀
輪唱歌集，小山作之助
重音唱歌集1，小山作之助
重音唱歌集2，小山作之助
女学唱歌1，山田源一郎
女学唱歌2，山田源一郎
デュエットトリオ唱歌集，楠美恩三郎
二重唱歌教本，福井直秋
三重唱歌教本，福井直秋
単唱歌教本，福井直秋
英語唱歌教科書，共益商社
四部合唱曲集，井上武士
著名合唱曲集，新響社
小学唱歌50曲集，原田彦二郎
ポケット唱歌，共益商社
ヘルプスト唱歌1，福井直秋
ヘルプスト唱歌2，福井直秋
二部合唱曲集，井上武士
三部合唱曲集，井上武士
歌謡名曲集1，小松耕輔
歌謡名曲集2，小松耕輔
歌謡名曲集3，小松耕輔
歌謡名曲集4，小松耕輔
歌謡名曲集5，小松耕輔
尋常小学唱歌 伴奏楽譜歌詞評釈1，島崎赤太郎 福井直秋
尋常小学唱歌 伴奏楽譜歌詞評釈2，島崎赤太郎 福井直秋
尋常小学唱歌 伴奏楽譜歌詞評釈3，島崎赤太郎 福井直秋

秋
尋常小学唱歌 伴奏楽譜歌詞評釈4，島崎赤太郎 福井直秋
尋常小学唱歌 伴奏楽譜歌詞評釈5，島崎赤太郎 福井直秋
尋常小学唱歌 伴奏楽譜歌詞評釈6，島崎赤太郎 福井直秋
小学唱歌集伴奏譜，山田源一郎
大正小学唱歌，民衆書房
◆小学校唱歌新教材
①親鶏子鶏きようだい，大阪音楽学校 永井幸次
②五一ぢいさん親猫子猫，大阪音楽学校 永井幸次
③雛菊，大阪音楽学校 永井幸次
④蛭一軒家，大阪音楽学校 永井幸次
⑤かぢや，大阪音楽学校 永井幸次
⑥早くお家へ帰りませう、まはりつこ，大阪音楽学校 永井幸次
⑦でんでんむし、ささ舟，大阪音楽学校 永井幸次
⑧雨、小野道風，大阪音楽学校 永井幸次
⑨三匹の猿，大阪音楽学校 永井幸次
⑩燈台守の娘，大阪音楽学校 永井幸次
⑪山びこ、きのことり，大阪音楽学校 永井幸次
⑫鳥居勝商，大阪音楽学校 永井幸次
⑬開墾、山の秋，大阪音楽学校 永井幸次
⑭飛行機，大阪音楽学校 永井幸次
⑮花さかぢいさん[、]町の朝，大阪音楽学校 永井幸次
⑯捕鯨船，大阪音楽学校 永井幸次
⑰牛と馬，大阪音楽学校 永井幸次
⑱筍金の鶏，大阪音楽学校 永井幸次
⑲鯉のぼり、私のキューピーさん，大阪音楽学校 永井幸次
⑳山家の雨、水てつぼう，大阪音楽学校 永井幸次
21 菱うち、かうもり，大阪音楽学校 永井幸次
22 海へ、象、水てつぼう，大阪音楽学校 永井幸次
23 郵便函、鷺，大阪音楽学校 永井幸次
24 雫の提灯お窓，大阪音楽学校 永井幸次
◆童謡対話唱歌お伽歌劇

童謡曲集，山田耕作
母さん里，藤井清水曲 野口雨情詩
新らしき民謡，齋藤佳三
こどものうた 1，水谷式夫
こどものうた 2，水谷式夫
かはいい唱歌 1，青木存義
かはいい唱歌 2，青木存義
ベビー唱歌 1，水谷式夫
ベビー唱歌 2，水谷式夫
民謡踊，水谷式夫
民謡集胸の小草 1，水谷式夫
民謡集胸の小草 2，水谷式夫
民謡集胸の小草 3，水谷式夫
民謡集胸の小草 4，水谷式夫
民謡集胸の小草 5，水谷式夫
新作童謡 1，本居長世
新作童謡 2，本居長世
新作童謡 3，本居長世
新作童謡 4，本居長世
新作童謡 5，本居長世
新作童謡 6，本居長世
新作童謡 7，本居長世
新作童謡 8，本居長世
新作童謡 9，本居長世
新作童謡 10，本居長世
新作童謡 11，本居長世
「赤い鳥」童謡 1，鈴木三重吉編 成田爲三曲
「赤い鳥」童謡 2，鈴木三重吉編 成田爲三曲
「赤い鳥」童謡 3，鈴木三重吉編 成田爲三曲
「赤い鳥」童謡 4，鈴木三重吉編 成田爲三曲
「赤い鳥」童謡 5，鈴木三重吉編 成田爲三曲
「赤い鳥」童謡 6，鈴木三重吉編 成田爲三曲
童謡曲譜 白いボート，本居長世
母どり子どり，山田耕作
大きな帽子，本居長世
子供達の歌 赤い櫓，白眉社
七色鉛筆，白眉社
脊くらべ，白眉社
ポチの学校，白眉社

金の星童謡 人買船，本居長世曲 野口雨情謡
一つお星さん，本居長世曲 野口雨情謡
青い空，本居長世曲 野口雨情謡
童謡曲集 1，草川信
童謡小曲 1，中山晋平
童謡小曲 2，中山晋平
童謡小曲 3，中山晋平
童謡小曲 4，中山晋平
童謡小曲 5，中山晋平
童謡小曲 6，中山晋平
童謡の巻，近衛秀麿
童謡楽譜 がんぎりお眼々，室崎琴月
すすき，室崎琴月
大雪，室崎琴月
童謡 たんぼぼ，法月歌実歌 松島彝曲
かもめ，法月歌実歌 松島彝曲
水ぐるま，水谷まさる詩 宮原禎次曲
草川信創作曲集，草川信
新童謡と其曲譜 1，二松社
新童謡と其曲譜 2，二松社
◆対話唱歌とお伽歌劇
対話唱歌 ①舌切雀，水谷式夫
対話唱歌 ②こぶとり，水谷式夫
対話唱歌 ③ぶんぶく茶釜，水谷式夫
対話唱歌 ④桃太郎さん，水谷式夫
対話唱歌 ⑤花咲爺，水谷式夫
対話唱歌 ⑥猿と蟹，水谷式夫
対話唱歌 ⑦狸と兎さん，水谷式夫
対話唱歌 ⑧浦島さん，水谷式夫
対話唱歌 ⑨羽衣，水谷式夫
対話唱歌 ⑩橋弁慶，水谷式夫
対話唱歌 ⑪若水，水谷式夫
対話唱歌 ⑫三井寺，水谷式夫
対話唱歌 ⑬宝槌，水谷式夫
対話唱歌 ⑭花あらしひ，水谷式夫
対話唱歌 ⑮夢物語やきどり，水谷式夫
対話唱歌 ⑯蛙の玉子，水谷式夫
お伽歌劇 ドンブラコ乙，北村季晴

お伽歌劇 ドンブラコ伴奏付甲，北村季晴
お伽歌劇 ピョコ太郎乙，北村季晴
お伽歌劇 ピョコ太郎伴奏付甲，北村季晴
対話唱歌 カクレンボ乙，北村季晴
対話唱歌 カクレンボ伴奏付甲，北村季晴
対話唱歌 人形病院乙，北村季晴
対話唱歌 人形病院伴奏付甲，北村季晴
対話唱歌 ハイハイ息子乙，北村季晴
対話唱歌 ハイハイ息子伴奏付甲，北村季晴
お伽歌劇 ①因果応報，瀧田卯夫
お伽歌劇 ②貝拾ひ，瀧田卯夫
お伽歌劇 ③墨子姫，瀧田卯夫
対話唱歌 ①花子さんと鳥，町田櫻園
対話唱歌 ②灯台守の娘，町田櫻園
対話唱歌 ③雪の森，町田櫻園
対話唱歌 ④なまけ雷，町田櫻園
対話唱歌 ⑤狐とかがし，町田櫻園
対話唱歌 ⑥俄人形，町田櫻園
お伽歌劇 ①舌切雀，町田櫻園
お伽歌劇 ②足柄山，町田櫻園
お伽歌劇 ③二ツ団子，町田櫻園
お伽歌劇 ④花咲爺，町田櫻園
お伽歌劇 ⑤二人浦島，町田櫻園
お伽歌劇 ⑥瘤取り，町田櫻園
お伽歌劇 ⑦日の丸柿太郎，町田櫻園
お伽歌劇 ⑧雪姫（雪月花），町田櫻園
お伽歌劇 ⑨文福茶釜，町田櫻園
お伽歌劇 ⑩橋弁慶，町田櫻園
お伽歌劇 昔ばなし，弘田龍太郎
少女歌劇 父を尋ねて，瀧田卯夫
少女歌劇 子供のおどり，水谷式夫
少女オペラ ①大黒様，水谷式夫
少女オペラ ②鬼が島，水谷式夫
少女オペラ ③肥の河上，水谷式夫
幼児オペラ ①雀のお宿、兎と亀，水谷式夫
幼児オペラ ②七つの小山羊、兵隊遊び，水谷式夫
幼児オペラ ③さるかに合戦、ひばりの親子，水谷式夫
遊戯付き少女小曲 春のお船，室崎琴月
野遊，永井幸次

小学校女学校 ダンス「銀鈴」，中村軾
◆うたのほん
寂しき夜の歌，山田耕作曲 大橋房子詩
三木創作独唱曲 我が思ひ，山田耕作 三木露風
みなぞこの月 待宵草，山田耕作 三木露風
露風の巻合，山田耕作 三木露風
露風の巻分本 ①嘆き，山田耕作 三木露風
露風の巻分本 ②つばめ，山田耕作 三木露風
露風の巻分本 ③異国，山田耕作 三木露風
露風の巻分本 ④ふるさと，山田耕作 三木露風
露風の巻分本 ⑤信仰と牢獄，山田耕作 三木露風
露風の巻分本 ⑥唄，山田耕作 三木露風
露風の巻分本 ⑦風ぞゆく，山田耕作 三木露風
露風の巻分本 ⑧樹立，山田耕作 三木露風
新作 子守歌，山田耕作
新らしき民謡，齋藤佳三
かもめ，弘田龍太郎
牧人の歎き，弘田龍太郎
あさね，弘田龍太郎
月待草，草川信
印度の悲歌，大須賀績
雲雀，長尾豊作
四ツ葉のクロバ，吉丸一昌
凋落，多忠亮曲 平井晩村詩
藤のゆかり，下田 幸田
四季，瀧廉太郎
露の輝き1，外山 林
露の輝き2，外山 林
花の春，梁田貞
松山かがみ，柏樹 田中
離れ小島，北村季晴
露営の夢，北村季晴
須磨の曲，北村季晴
昼の夢，梁田貞
新作子守歌，十字屋
独唱「小児」，土井晩翠詩 北村泰三曲
何をのぞみに，田中寅之助
わかれ，田中寅之助

サスライ ， 田中寅之助
青年の歌 ， 山田耕作
名曲叢書 3 独唱曲 ， 共益商社
独唱歌 わすれなぐさ ， 成田為三
チェリー ， 高折周一
喜歌劇 おてくさん ， 益田太郎冠者
コロケケ ， 益田太郎冠者
テイガリガリン ， 益田太郎冠者
へべレツケ ， 佐々紅華
アマチュア楽譜 ①月下の音楽 ， 共益商社
アマチュア楽譜 ②水車 ， 共益商社
アマチュア楽譜 ③難波船 ， 共益商社
哀歌 1 ， 音楽社
哀歌 2 ， 音楽社
哀歌 3 ， 音楽社
哀歌 4 ， 音楽社
新作楽譜 1 ， 共益商社
新作楽譜 2 ， 共益商社
新作楽譜 3 ， 共益商社
新作楽譜 4 ， 共益商社
新作楽譜 5 ， 共益商社
新作楽譜 6 ， 共益商社
新作楽譜 7 ， 共益商社
新作楽譜 8 ， 共益商社
新作楽譜 9 ， 共益商社
新作楽譜 10 ， 共益商社
新作楽譜 11 ， 共益商社
新作楽譜 12 ， 共益商社
新作楽譜 13 ， 共益商社
新作楽譜 14 ， 共益商社
新作楽譜 15 ， 共益商社
新作楽譜 16 ， 共益商社
新作楽譜 17 ， 共益商社
新作楽譜 18 ， 共益商社
新作楽譜 19 ， 共益商社
新作楽譜 20 ， 共益商社
新作楽譜 21 ， 共益商社
新作楽譜 22 ， 共益商社
新作楽譜 23 ， 共益商社

新作楽譜 24 ， 共益商社
新作楽譜 25 ， 共益商社
青年愛謡曲 ①青い鳥 ， 小野島樹人 海野石子
青年愛謡曲 ②白雪 ， 小野島樹人 海野石子
青年愛謡曲 ③悲愁 ， 小野島樹人 海野石子
青年愛謡曲 ④夜の鶯 ， 小野島樹人 海野石子
青年愛謡曲 ⑤春ここに ， 小野島樹人 海野石子
青年愛謡曲 ⑥歌へ ， 小野島樹人 海野石子
郊宴の歌 ， 新響社
野ばら ， 新響社
魔王 ， 新響社
◆二部三部四部合唱曲
女声三部 かへれ ， 新響社
女声二部 春のゆくへ ， 新響社
女声三部 水蜻蛉 ， 新響社
混声合唱 鶯 ， 新響社
特撰著名合唱曲集 ， 新響社
三部合唱 鶴が岡 原名ツイゴイネルレーベン ， 共益商社
二部合唱曲集 ， 井上武士
二重唱歌教本 ， 福井直秋
三重唱歌教本 ， 福井直秋
◆大阪音楽学校発行楽譜
①舟遊び（三部四部合唱曲） ， 永井幸次編 田中銀之助編
②平和（三部四部合唱曲） ， 永井幸次編 田中銀之助編
③我郷（三部合唱曲） ， 永井幸次編 田中銀之助編
④雁（三部四部合唱曲） ， 永井幸次編 田中銀之助編
⑤夕の鐘（四部合唱曲） ， 永井幸次編 田中銀之助編
⑥夏の曙（独唱曲） ， 永井幸次編 田中銀之助編
⑦春の旅（三部合唱） ， 永井幸次編 田中銀之助編
⑧俊寛（独唱曲） ， 永井幸次編 田中銀之助編
⑨海国の民（同混四部） ， 永井幸次編 田中銀之助編
⑩楽しく遊べ（同声三四部） ， 永井幸次編 田中銀之助編
⑪三保の松原（独唱） ， 永井幸次編 田中銀之助編
⑫小式部内侍（同） ， 永井幸次編 田中銀之助編
⑬紙路山川辺の逍遥（三部四部合唱） ， 永井幸次編 田中銀之助編
⑭友を偲ぶ（独唱曲） ， 永井幸次編 田中銀之助編

◆オルガン楽譜
新撰オルガン教科書，音楽研究会
実用オルガン教本，開成館音楽課
撰定オルガン教本，島崎赤太郎校 開成館音楽課
初等オルガン教科書，天谷 多梅稚
教科適用 進行曲粋1，開成館音楽課
教科適用 進行曲粋2，開成館音楽課
小学唱歌 進行曲集，開成館音楽課
小学唱歌 オルガンピアノ楽譜，開成館音楽課
祝日唱歌伴奏楽譜，開成館音楽課
行進名曲集，開成館音楽課
オルガン教則本1，島崎赤太郎
オルガン教則本2，島崎赤太郎
オルガン教科書，中田章
オルガン曲集，楠美恩三郎
オルガンの友1，ノエル・ペリー
オルガンの友2，ノエル・ペリー
オルガンの友3，ノエル・ペリー
ピアノオルガン 練習書，共益商社
オーガン教本，共益商社
続オーガン教本，共益商社
進行曲教本，共益商社
ヘルプスト進行曲，福井直秋
方舞，吉田信太
リードオルガンアルバム，島崎赤太郎
オルガン曲撰1，中田章
オルガン曲撰2，中田章
オルガン曲撰3，中田章
オルガン曲撰4，中田章
オルガン曲撰5，中田章
オルガン曲撰6，中田章
オルガン曲撰7，中田章
オルガンスタディーズ，中田章
名曲叢書7編 オルガン独奏曲，共益商社
ピアノオルガン名曲集初，坂井勝次郎
ピアノオルガン名曲集後，坂井勝次郎
オルガン名曲集，多梅稚
洋楽速成オルガンメソッド，多梅稚

進行名曲集，三善和気
ポケット進行曲，共益商社
進行曲，瓜生繁
オルガン独学び，十字屋
◆ピアノ楽譜
ピアノ演奏法，ヴァンティン著 馬場二郎訳
新撰ピアノ教則本，小倉末子
ピアノ小曲集，小倉末子
ピアノ小曲 小供と叔父さん，山田耕作
ピアノ小曲 夢の桃太郎，山田耕作
コドモピアノ曲集，三善和気
ピアノ名曲集，三善和気
簡易ピアノ独奏曲1，小松耕輔
簡易ピアノ独奏曲2，小松耕輔
簡易ピアノ独奏曲3，小松耕輔
名曲叢書 ピアノ連弾曲，共益商社
名曲叢書 ピアノ独弾曲，共益商社
ピアノ名曲集1，萩原英一
ピアノ名曲集2，萩原英一
ピアノ名曲集3，萩原英一
調和楽 越後獅子，沢田柳吉
調和楽 元禄花見踊，沢田柳吉
調和楽 かつぼれ，沢田柳吉
調和楽 六段の調，山田耕作
長唄 ①勸進帳，北村季晴
長唄 ②鶴亀，北村季晴
長唄 ③越後獅子，北村季晴
長唄 ④老松，北村季晴
長唄 ⑤元禄踊，北村季晴
長唄 ⑥道成寺，北村季晴
長唄 ⑦小鍛冶，北村季晴
長唄 ⑧吾妻八景，北村季晴
長唄 ⑨秋の色種，北村季晴
◆ヴァイオリン楽譜
ヴァイオリン独習法，三木楽器店
ヴァイオリン小曲集，開成館
ヴァイオリン教則本1，開成館

ヴァイオリン教則本2，開成館
ヴァイオリン教科書，ユンケル
ヴァイオリン小曲「まきば」，山田耕作
ヴァイオリンマンドリン合奏曲 春雨，山田耕作
ヴァイオリンマンドリン合奏曲 勸進帳，山田耕作
ヴァイオリンマンドリン歌劇精粹，開成館
ヴァイオリン名曲集，白山清太郎
独奏名曲集，高木和夫
ヴァイオリンマンドリン二部名曲集，山口季次郎
ヴァイオリンマンドリン歌劇名曲集，高木和夫
ヴァイオリン小品集，共益商社
泰西名曲集1，甲賀夢仙
泰西名曲集2，甲賀夢仙
ホームミュージックアルバム，白山清太郎
名曲叢書ヴァイオリン独奏曲，共益商社
ヴァイオリン独まなび，十字屋
ヴァイオリン曲粹1，白眉社
ヴァイオリン曲粹2，白眉社
ヴァイオリン曲粹3，白眉社
ヴァイオリン曲粹4，白眉社
ヴァイオリンメソッド，多梅稚
泰西名曲集1，高野純
泰西名曲集2，高野純
泰西名曲集3，高野純
ヴァイオリン三の位置教本，北村季晴
白眉ヴァイオリン独習，白眉社
◆マンドリン楽譜
新撰マンドリン独習，三木音楽部
マンドリン独習自在，三木音楽部
歌劇精粹，三木音楽部
マンドリン独習，高浜孝一
マンドリン独学び，十字屋
マンドリン曲粹1，白眉社
マンドリン曲粹2，白眉社
マンドリン曲粹3，白眉社
マンドリンメソッド，多梅稚
新らしきマンドリン曲，イーストレーキ
マンドリンニストアルバム，横山傳一郎

マンドリン独奏重音名曲集，横須賀薫三
白眉マンドリン独習，白眉社
◆ヴァイオリン二部合奏 紅洋楽譜
①海を越えて，福島紅洋編
②瀬戸の風景，福島紅洋編
③兵士の合唱，福島紅洋編
④女神の舞，福島紅洋編
⑤婚約の指環，福島紅洋編
⑥花嫁の合唱，福島紅洋編
⑦カール王行進，福島紅洋編
⑧歌劇ウイリアムテル，福島紅洋編
⑨歌劇カルメン，福島紅洋編
⑩歌劇ドナウ河の漣，福島紅洋編
⑪日の出行進曲，福島紅洋編
⑫ラ、フライシューツ，福島紅洋編
⑬君が代行進曲，福島紅洋編
⑭双鷲旗の下に，福島紅洋編
⑮黒人ダンス，福島紅洋編
⑯大戦記念，福島紅洋編
⑰支那楽大湖船，福島紅洋編
⑱ローレライ，福島紅洋編
⑲月光の曲，福島紅洋編
◆妹尾楽譜
1 バイオリンピアノ ドナウ河の漣，イバノヴィツチ作曲
2 軍艦行進曲，瀬戸口軍楽長作曲
3 バイオリンピアノ君が代行進曲，吉本軍楽長作曲
4 夜のしらべ，グーノウ作曲 杉浦非水画
5 時局軍歌 チツペラリーの歌，ウイリアムス作曲
6 歌劇 チョコレート兵隊の唄，ストラウス作曲
7 時局軍歌 ダブリン湾の歌，マーフィー作曲
8 ハリーラウダー 朝の歌，ラウダー作曲
9 歌劇 ドンジュアンの歌，モツアルト作曲
10 夜のごと静けく，カールポーム作曲
11 麗はしき天然，沢田柳吉作曲
12 お江月日本橋，沢田柳吉作曲 竹久夢二画
13 恋はやさしい野辺の花よ，スツペ作曲 小林文学士訳詞

14 眠りの精，ブラームス作曲 堀内敬三訳詞
15 初恋の歌，エドワーズ作曲
16 歌劇 ホフマンの船うた（改訂版），オツフエンバツハ作曲 堀内敬三訳詞
17 歌劇リゴレット 女心の歌，ヴェルデイ作曲 堀内敬三訳詞
18 喜歌劇ピンクレディー きれいな御婦人，カーライル作曲
19 歌劇ミニヨン 君よ知るや南の国，トーマス作曲 堀内敬三
20 喜歌劇マスコツト 前兆の歌，オウドラン作曲 堀内敬三訳詞
21 歌劇トスカ 「星も光りぬ」の歌，プッチニ作曲 妹尾幸陽訳詩
22 西班牙小夜楽 ラ・パロマド，イラジエル作曲 妹尾幸陽訳詞
23 唱歌 ドナウ河の漣，イバノウイッチ作曲 田村良一作歌
24 シューベルトの子守歌，シューベルト作曲 内藤文学士作歌
25 時局唱歌 籠の火をたやすな，ノベルロ作曲
26 歌劇蝶々夫人 「夢を重ねし」の歌，ブツチニ作曲 妹尾幸陽訳詞
27 露国歌謡 唯我が心悩ぞ知らめ，チャイコフスキー作曲 二見文学士訳詞
28 歌劇 カルメンハバネラの歌，ビゼー作曲 堀内敬三訳詞
29 新喜歌劇 今夜だ今夜だ，ルーバン作曲
30 新喜歌劇 活動の女王の歌，ギルベア作曲
31 新喜歌劇 ベツテイーの歌，ルーパン作
32 新喜歌劇 メリーウイドウ歌 レハー作曲
33 コルネビルの鐘「海を憶ふ歌」，ブランケット作曲 神降滋鳥訳詞
34 ブラームスの子守歌，ブラームス作曲 堀内敬三訳詞
35 歌劇白鳥の騎士 エルザの夢，ワグネル作曲 二見文学士訳詞
36 四部合唱 流浪の民，シーマン作曲 石倉文学士訳詞
37 喜歌劇チナ バルカロレ，ワード作曲
38 喜歌劇チナ バイオリンの歌，ルーバン作曲

39 電話娘の歌，ロンベルグ作曲
40 バイオリンピアノ クシコスの郵便，ホッケ作曲
41 バイオリンピアノ 金婚式，マリー作曲
42 歌劇 フラ・デアボロの歌，オーベル作曲 堀内敬三昇詞
43 歌劇 「運命の力」の歌，ウエルデイ作曲 堀内敬三訳詞
44 小唄 蘭燈，竹久夢二詩画 本居長世作曲
45 小唄 春の宵，竹久夢一詩画 本居長世作曲
46 歌劇 マダムアンゴアの歌，レコック作曲
47 ローレライの歌，シルヘル作曲 二見文学士訳詞
48 我身をささげて，ストラウス作曲 二見文学士訳詞
49 喜歌劇ハイジックス しやぼん玉の歌，フリンムル作曲
50 喜歌劇ハイジックス サンミーのマルセーユ，フリンムル作曲
51 喜歌劇ハイジックス 愛の接吻，フリンムル作曲
52 新喜歌劇幸福の日 ボヘミアの歌，ルーバン作曲
53 歌劇椿姫 ああそはかの人か，ヴェルデー作曲 堀内敬三訳詞
54 海のうた，ダンデー作曲 堀内敬三訳詞
55 揺籃，フォーレ作曲 堀内敬三訳詞
56 汝の碧き眼を開け，マスネー作曲 二見文学士訳詞
57 伊太利ナポリの民謡 私の太陽よ，カプア作曲 妹尾幸陽訳詩
58 小夜歌，シューベルト作曲 妹尾幸陽訳詞
59 悲しきワルツ，シベリウス作曲 二見文学士訳詞
60 小唄 別れし宵，竹久夢二詩画 本居長世作曲
61 小唄 舞姫，伊藤小四郎作詩 本居長世作曲
62 欧州流行歌曲 さらば，トステイ作曲 堀内敬三訳詞
63 欧州流行小唄 可愛や胡蝶，ゴールデン作曲 堀内敬三訳詞
64 ロマアンス，デビュシー作曲 妹尾幸陽訳詞
65 鐘，デビュシー作 妹尾幸陽訳詞
66 歌のつばさ，ハーン作曲 妹尾幸陽訳詞
67 花の香，ブランク作曲 妹尾幸陽訳詞
68 セレナーデ，ピエルネ作曲 妹尾幸陽作曲
69 秋の歌，ハーン作曲 二見文学士訳詞
70 月白し，ハーン作曲 内藤文学士訳詞

71 悲しきけしき，ハーン作曲 二見文学士訳詞
72 新喜歌劇ビングボーイ 世界でお前一人だつたら，アイヤー作曲
73 新喜歌劇ビングボーイ もう一杯はよからうよ，アイヤー作曲
74 英国時局唱歌 カーキ服の若者，ノベルロ作曲
75 英国時局小唄 灰色の家，レール作曲
76 英国時局唱歌 世界の自由の爲めに，ツアメクニツク作曲
77 月光，サンサーン作曲 内藤文学士訳詞
78 牧歌，ダンディー作曲 内藤文学士訳詞
79 わかれ，フランツ作曲 二見文学士訳詞
80 燕去りぬ，ブラームス作曲 二見文学士訳詩
81 歌劇 セビラの理髪師，ロツシー二作曲 妹尾幸陽訳詞
82 ローザリーの歌，ネビン作曲
83 悲歌，マスナー作曲 二見文学士訳詞
84 トステイのセレナタ，トステイ作曲 妹尾幸陽訳詞
85 君の歌に眠らしめよ，グリーン作曲 妹尾幸陽訳詞
86 祈願，ウオルフ作曲 二見文学士訳詩
87 世を捨てて 隠栖，ウオルフ作曲 二見文学士訳詞
88 英国流行小唄 恋慕夜曲，ハザエー作曲 妹尾幸陽訳詞
89 時局軍歌 海の向へ，コーアン作曲 堀内敬三解説
90 歌劇カルメン 闘牛の歌，ビゼー作曲 堀内敬三訳詞
91 歌劇サンソンとダリラ 暁の花と心は開く，サンサーン作曲 堀内敬三訳詞
92 独唱 荒城の月，山田耕作編曲
93 独唱 涙，竹久夢二作詩 山田耕作作曲
94 独唱 風がひとり，川路柳虹作曲 山田耕作作曲
95 戯歌 妻君来い，本居長世作曲 北沢楽天画
96 歌劇トロバトーレ 焰燃えぬ，ヴェルディ作曲 堀内敬三訳詞
97 歌劇トロバトーレ 胸のあらし，ヴェルディ作曲 堀内敬三訳詞
98 海辺の歌，林古溪作歌 成田爲三作曲
99 ペーアギント ソルベツヂの歌，グリーグ作曲 二見文学士訳詞
100 二部合唱 春潮，惟一倶楽部作歌
101 バイオリンピアノ ニーナの死，ペルゴレイシ作曲
102 時局軍歌 チツペラリーに遠いのは，ダツドレー作曲

103 時局軍歌 伯林には遠いが，レオン・フラト作曲
104 時局軍歌 しつかりリザさん，ハツプベル作曲
105 帝劇歌劇 嘘の世の中，益田太郎冠者編曲
106 待宵草，竹久夢二作詩 多忠亮作曲
107 月の夜，シューマン作曲 二見文学士訳詞
108 時局軍歌 あとを追って，モナーコ作曲
109 北欧名歌 イルメリンの姫君，バーガー作曲 二見文学士解説
110 露国名歌 雲と山，リムスキーコルサコフ作曲 二見文学士訳詩
111 思出の歌，エリオツト作曲 妹尾幸陽解説
112 古戦場の秋，葛原滋作詩 成田爲三作曲
113 もしや逢ふかと，竹久夢二作詩 沢田柳吉作曲
114 雪の扉，竹久夢二作詩 沢田柳吉作曲
115 わだつみ，マクドウエル作曲 二見文学士訳詞
116 街燈，竹久夢二作詩 沢田柳吉作曲
117 歌劇タンホイゼル 夕星の歌，ワグネル作曲 二見文学士訳詞
118 ふるさと，竹久夢二作詩 沢田柳吉作曲
119 清怨，竹久夢二作詩 成田爲三作曲
120 君の頬を，エンゼン作曲 二見文学士訳詞
121 楽に寄す，シューベルト作曲 二見文学士訳詞
122 愛の調べ，ムーアス作曲 堀内敬三訳詞
123 麓の道，伊庭孝作詩 沢田柳吉作曲
124 菩提樹の歌，シューベルト作曲 妹尾幸陽訳詞
125 春の夜，シューマン作曲 二見文学士訳詞
126 新作詩歌 夕暮，相馬御風作詩 沢田柳吉作曲
127 蓮の花，シューマン作曲 二見文学士訳詞
128 歌劇プロフェット ああ吾が子よ，マイヤーベア作曲 二見文学士訳詞
129 露国名曲 星影，ムーゾルグスキー作曲 二見文学士訳詞
130 さすらひ人，シューベルト作曲 二見文学士昇詞
131 君が像，シューベルト作曲 二見文学士訳詞
132 ラルゴー 覚醒，ヘンデル作曲 内藤文学士訳詞
133 帝劇笑劇 ハテナ，益田太郎冠者編曲
134 米国流行小唄 スマイルス，ロバーツ作曲 堀内敬三解説
135 米国流行小唄 虹を追ひつつ，カロール作曲 堀内敬

三解説
136 米国流行小唄 メーリー ， ユーゴー・フレ作曲 堀内敬三解説
137 喜歌劇アルカンタラの医師 お寺の壁には ， アイヒベルグ作曲 小林愛雄訳詞
138 喜歌劇アルカンタラの医師 恋の爲に身は捕はれ ， アイヒベルグ作曲 小林愛雄訳詞
139 故小妹 ， 西班牙古曲 惟一倶楽部作歌
140 小夜砧 ， スレード作曲 惟一倶楽部作歌
141 露国名曲 ヴォルガの舟人（附、雁の叫） ， 露国代表的民請
142 歌劇ファウスト 夜をひと夜（開幕の大場面） ， グーノオ作曲 堀内敬三訳詞
143 歌劇ファウスト 故郷をあとに（ブレンチン） ， グーノオ作曲 堀内敬三訳詞
144 歌劇ファウスト 微笑むそよ風（ワルツの合唱） ， グーノオ作曲 堀内敬三訳詞
145 歌劇ファウスト 園に香る此の花（ジーベル） ， グーノオ作曲 堀内敬三訳詞
146 歌劇ファウスト など斯ぐは悩める（ファウスト） ， グーノオ作曲 堀内敬三訳詞
147 歌劇ファウスト ツウレ王の歌 ， グーノオ作曲 堀内敬三訳詞
148 歌劇ファウスト 宝石の歌（マガレータ） ， グーノオ作曲 堀内敬三訳詞
149 歌劇ファウスト 夜更けぬ（二重唱「恋の夜月澄む」） ， グーノオ作曲 堀内敬三訳詞
150 歌劇カルメン 子供の合唱 ， ビゼー作曲 堀内敬三訳詞
151 歌劇カルメン 煙草工女の合唱 ， ビゼー作曲 堀内敬三訳詞
152 歌劇カルメン セギデイリアの歌 ， ビゼー作曲 堀内敬三訳詞
153 歌劇カルメン ジブシーの歌 ， ビゼー作曲 堀内敬三訳詞
154 歌劇カルメン 花の唄（フラワーアリア） ， ビゼー作曲 堀内敬三訳詞
155 歌劇カルメン ミカエラの歌 ， ビゼー作曲 堀内敬三訳詞

156 二部合唱 春夜夢 ， メンデルソン作曲 惟一倶楽部作歌
157 独唱 庭の千草 ， 竹久夢二画 ムーア作曲
158 アベ・マリア ， グーノオ作曲 妹尾幸陽解説
159 新作独唱 花をたづねて ， 竹久夢二作詩 多忠亮作曲
160 大喜歌劇古城の鐘 船歌 ， プランケツテ作曲 小林愛雄訳詞
161 喜歌劇クリスピノ 綺麗な娘 ， リーチ兄弟作曲 小林愛雄訳詞
162 喜歌劇小公子 結婚指輪の歌 ， レコツク作曲 小林愛雄訳詞
163 喜歌劇小公子 恋のいきさつ ， レコツク作曲 小林愛雄訳詞
164 喜歌劇小公子 喇叭を皆響かせよ ， レコツク作曲 小林愛雄訳詞
165 欧米名歌 愛の古き歌 ， モルロイ作曲 橘三郎訳詞
166 歌劇道化師 笑へパリアッチョ ， レオンカバロ作曲 橘三郎訳詞
167 欧米名歌 スキートホーム ， ビシヨツプ作曲 妹尾幸陽訳解
168 荘厳独唱 聖霊頌歌 ， バッハ作曲 惟一倶楽部作歌
169 新作独唱 影ふめば ， 永田龍雄作詞 藤井清水作曲
170 新作独唱 いはれぬ嘆き ， 永田龍雄作詩 藤井清水作曲
171 喜歌劇天国と地獄 羊飼の歌 ， オッフェンバッハ作曲 小林愛雄訳詞
172 喜歌劇天国と地獄 笑ひの歌 ， オッフェンバッハ作曲 小林愛雄訳詞
173 喜歌劇天国と地獄 蟬の歌 ， オッフェンバッハ作曲 小林愛雄訳詞
174 歌劇ドンジョバンニ セレナータ ， モツアルト作曲 堀内敬三訳詞
175 新作独唱 消えてあとなき ， 永田龍雄作詩 藤井清水作曲
176 新作独唱 ちちのみの ， 永田龍雄作詩 藤井清水作曲
177 新作独唱 匂ひの雨 ， 永田龍雄作詩 藤井清水作曲
178 新作独唱 紡車 ， 竹久夢二詩作 藤井清水作曲
179 伊太利ナポリ民謡 サンタルチア ， 伊太利歌調 妹尾幸陽訳詞

180 歌劇マダムバタフライ 晴れた日の，プチニ作曲 妹尾幸陽訳詞
181 歌劇トスカ 愛と歌に，プチニ作曲 妹尾幸陽訳詞
182 歌劇ラクメ 御堂の庭の（二部合唱），デリーブ作曲 妹尾幸陽訳詞
183 独逸名歌 永久の愛，ブラームス作曲 妹尾幸陽訳詞
184 新作独唱 大島女，川路柳虹作詞 藤井清水作曲
185 新作独唱 暮れて行く，柳沢健作詞 藤井清水作曲
186 歌劇ボヘム コートの歌，プチニ作曲 橘三郎訳詞
187 歌劇サドコ 印土の歌，リムスキーコルサコフ作曲 堀内敬三訳詞
188 新作独唱 わすれな草，竹久夢二作詩 藤井清水作曲
189 滑稽小唄 美しきクレオパトラ，橘三郎作歌作曲
190 歌劇「愛を誘ふ菓」 ひそかに頬をはつたふ涙，ドニゼツチ作曲 橘三郎訳詞
191 新作独唱 雨の泣く日は，服部嘉香作詩 藤井清水作曲
192 新作独唱 月ぞけぶれる，永田龍雄作詩 藤井清水作曲
193 新作独唱 月光と露，竹内勝太郎作詩 藤井清水作曲
194 仏国名曲 夕映，デビュツシー作曲 妹尾幸陽訳詞
195 喜歌劇ボカチオ 伊太利我が祖国，スツベ作曲 小林愛雄訳詞
196 喜歌劇ボカチオ 小夜楽「歌はトチチリチン」，スツベ作曲 小林愛雄訳詞
197 喜歌劇ボカチオ 酒と媚，スツベ作曲 小林愛雄訳詞
198 喜歌劇ブム大将 大将閣下の名ブムブム，オッフエンバッハ作曲 小林愛雄訳詞
199 喜歌劇ブム大将 我は軍人を愛す，オッフエンバッハ作曲 小林愛雄訳詞
200 喜歌劇ブム大将 戦争報告の歌，オッフエンバッハ作曲 小林愛雄訳詞
201 喜歌劇ブム大将 結婚の夜の歌，オッフエンバッハ作曲 小林愛雄訳詞
202 喜歌劇古城の鐘 鐘の由来，プランケツト作曲 小林愛雄訳詞
203 喜歌劇古城の鐘 村長の唄，プランケツト作曲 小林愛雄訳詞
204 喜歌劇古城の鐘 鎧の唄，プランケツト作曲 小林愛

雄訳詞
205 喜歌劇古城の鐘 あの青い顔，プランケツト作曲 小林愛雄訳詞
206 喜歌劇古城の鐘 忘れぬあの夜，プランケツト作曲 小林愛雄訳詞
207 喜歌劇アルカンタラの医師 医師の歌，アイヒベルグ作曲 小林愛雄訳詞
208 喜歌劇アルカンタラの医師 若し恋人貧しかれば，アイヒベルグ作曲 小林愛雄訳詞
209 喜歌劇アルカンタラの医師 恋の歌，アイヒベルグ作曲 小林愛雄訳詞
210 喜歌劇アルカンタラの医師 悲しや希望は，アイヒベルグ作曲 小林愛雄訳詞
211 米国名歌 スワニー河の歌，フォスター作曲 妹尾幸陽解説
212 挽歌 挽歌「ああ君」，三輪花影作詩 山田耕作作曲
213 新作独唱 ふる里の海，竹久夢二作詩 藤井清水作曲
214 歌劇オベロン 人魚の歌，ウエベル作曲 妹尾幸陽訳詞
215 新作独唱 春のあした，竹久夢二作詩 藤井清水作曲
216 独唱附三部合唱曲 ほととぎす，マツチンギ作曲 旗野十一郎作詩
217 トラピスト土産 修道院の花，三木露風作詩 タルシス作曲
218 布哇名歌 アロハウエー，クリウオカラニ作曲 妹尾幸陽解説
219 歌劇ボヘミアの娘 我をば偲び給へ，バルフ作曲 橘三郎訳詞
220 バイオリンピアノ 凱旋ボルカ，山本陸軍楽長作曲
221 歩兵騎砲兵 観兵式行進，陸軍々楽隊制定
222 海軍行進 敷島行進曲，瀬戸口軍楽長作曲
223 海軍行進 黄海の海戦記念曲，田中軍楽長作曲
224 海軍行進 軍人の精神，田中軍楽長作曲
225 海軍行進 進撃追撃，吉本軍楽長作曲
226 海軍行進 雪の進軍，赤崎軍楽長作曲
227 海軍行進 赤十字行進曲，瀬戸口軍楽長作曲
228 歌劇「タンホイゼル」 順禮の合唱，ワグネル作曲 妹尾幸陽訳詞
229 歌劇「タンホイゼル」 エリサベートの祈り，ワグネ

ル作曲 妹尾幸陽訳詞
230 歌劇「帰れる児」 たよりなの此の日， デビュツシー作曲 妹尾幸陽訳詞
231 歌劇「帰れる児」 過ぎし清き日， デビュツシー作曲 妹尾幸陽訳詞
232 聖楽メシア ハレルヤ合唱曲， ヘンデル作曲 妹尾幸陽解説
233 聖歌四部合唱 天地創造曲， ハイドン作曲 妹尾幸陽解曲
234 四部合唱 神の栄光， ベートーベン作曲 柴田柴庵解説
235 四部合唱 あはれ誠の精霊， モツアルト作曲 妹尾幸陽解説
236 新作独唱 五月の空に， 川路柳虹作詩 藤井清水作曲
237 新作独唱 夢見草， 服部嘉香作詩 藤井清水作曲
238 新作独唱 黄昏の歌， 尾山篤太郎作詩 藤井清水作曲
239 新作独唱 ゆるき流に， 霜田史光作詩 藤井清水作曲
240 新作独唱 千鳥， 永田龍雄作詩 藤井清水作曲
241 新作独唱 罌粟の花， 妹尾幸陽作詩 藤井清水作曲
242 歌劇ウルテル オシアン之歌， マスネー作曲 二見文学士訳詩
243 独逸名歌 魔王， シューベルト作曲 堀内敬三訳詞
244 新作独唱 乙女の春， 竹久夢二作詩 土屋平三郎作曲
245 新作独唱 巷の雪， 藤森秀夫作詩 土屋平三郎作曲
246 新作独唱 たそがれ， 竹久夢二作詩 土屋平三郎作曲
247 新作独唱 泣き黒子， 佐竹草迷宮作詩 土屋平三郎作曲
248 新作独唱 流れ星， 川路柳虹作詩 藤井清水作曲
249 新作独唱 白き手に， 柳沢健作詩 藤井清水作曲
250 新作独唱 ニーナの死， ベルゴレイジ作曲 妹尾幸陽訳詩
251 新作独唱 陶物師， 佐竹草迷宮作詩 土屋平三郎作曲
252 新作独唱 わが心は， 佐竹草迷宮作詞 土屋平三郎作曲
253 仏国軍歌 マデロンの歌， ロベール作曲
254 仏国名曲 夕の光り， マスネー作曲
255 米国名歌 深い河， バーレイ作曲
256 米国名歌 ミネトンカの湖畔， リューランス作曲 妹尾幸陽訳詞

257 ジョセランの子守歌， ゴダール作曲 妹尾幸陽訳詞
258 二部合唱 ベニス之夜， ルカントリ作曲 妹尾幸陽訳詞
259 西班牙小夜楽 ロリタ， ペチア作曲 妹尾幸陽訳詞
260 伊太利名歌 マチナータ， レオンカバロ作曲 妹尾幸陽訳詞
261 ボツカ・ボツカ・ベルラ， ロツチ作曲 妹尾幸陽訳詞
262 欧米名歌 家路， カーペンター作曲 妹尾幸陽訳詞
263 新作独唱 ゆく春， 長田幹彦作詩 山田耕作作曲
264 西班牙ハバネラ そなた， フェンテス作曲 妹尾幸陽訳詞
265 新作独唱 野の虹， 佐藤寛作詩 宮原禎次作曲
266 新作独唱 いにしへの， 林古溪作詩 藤井清水作曲
267 新作独唱 寂光の思， 永田龍雄作詩 藤井清水作曲
268 新作独唱 泣かまほしさに， 北原白秋作詩 藤井清水作曲
269 新編独唱 姫松小松， 箏曲 山田耕作編曲
270 新編独唱 さくらさくら， 箏曲 山田耕作編曲
271 新編独唱 来るか来るか， ながうた 山田耕作編曲
272 新編独唱 きんにやもにや， 九州鄙歌 山田耕作編曲
273 特作独唱 日本の胡蝶， 中内蝶二作詩 山田耕作編曲
274 第一独逸民謡集， 妹尾幸陽編
275 第二独逸民謡集， 妹尾幸陽編
276 第三独逸民謡集， 妹尾幸陽編
277 新作独唱 子守歌， 竹久夢二作詩 藤井清水作曲
278 心なにとて， 永田龍雄作詩 藤井清水作曲
279 花の木酔馬， 永田龍雄作詩、 藤井清水作曲
280 想ひ出， 川路柳虹作詩 藤井清水作曲
281 モールゲン（あした）， ストラウス作曲， 柴田柴庵訳
282 ふたりの舟， 宇治柴舟作詩 土屋平三郎作曲
283 きりぎりす， 水谷勝作詩 宮原禎次作曲
284 すすき， 西條八十作詩 宮原禎次作曲
285 ひとりの旅， 川路柳虹作詩 宮原禎次作曲
286 山の影， 大町桂月作詩 土屋平三郎作曲
288 歌劇「オルフオイス」四部合唱 幸ある国に， グルツク作曲 歌劇研究会訳
290 歌劇「オルフオイス」四部合唱 御神やよ， グルツク作曲

291 四部合唱 里祭， シュワーベン民謡 山田耕作編
292 四部合唱 世の態， 小野作三作歌 山田耕作作曲
293 四部合唱 タやけの唄， 木下奎太郎作詩 山田耕作作曲
294 スワニィ河の月， ピー・クラーク作曲 柴田柴庵曲解
295 四つ葉のクローバ， ルドルフ・ロイテル作曲 柴田勝衛曲解
296 混声四部合唱 流浪の民， シューマン作曲 石原文学士曲詞
297 女声四部合唱 ニーナの死， ベルゴレイジ作曲 妹尾幸陽曲詞
◆妹尾ヴァイオリン楽譜
501 モーメント・ミュージカル， シューベルト作曲
502 ジョセランの子守歌， ゴダール作曲
503 白鳥， サンサーン作曲
504 カバチナ， ヨアヒム・ラフ作曲
505 ハンガリアダンス第5， ブラームス作曲
506 ユモレスク， ドボルジャツク作曲
507 アンダンテ・レリジオソ， フランシストーメ作曲・
508 メヌエット・17番， モツアルト作曲
509 セレナーデ， フランツ・ドルドラ作曲
510 スーベニール， フランツ・ドルドラ作曲
511 ポルカ「維納の精兵」， ヨハン・ストラウス作曲
512 ハウザーの子守唄， ハウザー作曲
513 ゴセックのガボット， ゴセック作曲
514 ジー線上のアリア， バッハ作曲
515 アベマリア， バッハ・グーノオ作曲
516 ベニスの謝肉祭， 伊太利古曲
517 モツキングバーツ， ウィンナー作曲
518 ラールゴー， ヘンデル作曲
519 ハイドンのセレナーデ， ハイドン作曲
520 トラウメライ， シューマン作曲
521 マドリガル， シモネッチ作曲
522 歌劇カバレリア交響間奏楽， マスカニー作曲
523 葬送行進曲， ショパン作曲
524 劇楽アルルの女アダヂェット， ビゼー作曲
525 歌劇ペールギントアーゼの死， グリーグ作曲
526 子守歌， ヤーネフェルト作曲

527 ミニヨンのガボット， トーマス作曲
528 春のめざめ， バンハ作曲
529 ポッパーのガボット， ボツパー作曲
530 さらばの曲， サラサーテ作曲
531 アヴェ・ベルム・コルプス， モツアルト作曲
532 軍隊ポロネーズ， ショパン作曲
533 舞踏会への招待曲， ウェベル作曲
534 幻想即興楽の歌調， ショパン作曲
535 ショパンの小守歌， ショパン作曲
536 ポツケリニのメヌエット， ボツケリニ作曲
537 シルビア舞踊曲ピチカト舞曲， デリーブ作曲
538 劇楽ペーアギントアニトラの舞曲， グリーグ作曲
539 ショパンのマヅルカ， ショパン作曲
540 ベートーベンのメヌエット， ベートーベン作曲
541 愛の悲哀， クライスラー作曲
542 舞踊曲「ロザムンデ」， シューベルト作曲
543 シシソアノトリゴウドン， フランクール作曲
544 空想曲， ドルドラ作曲
545 田舎風の舞曲， ドルドラ作曲
546 意思名曲花の雨， ドルドラ作曲
547 魔法の鳥， シューマン作曲
548 コントル・ダンス， ベートーベン作曲
549 アゼンの廃址「土留古行進」， ベートーベン作曲
550 微風曲， フーバイ作曲
551 メロディー， チャイコフスキー作曲
552 太陽への讃歌， リムスキー・ヨハヒム作曲
553 ガボット， バッハ作曲
554 匈牙利舞曲， ブラームス・ヨアネー作曲
555 メディテーション（タイス） ， マスネー作曲
556 カブリース（変ほ長調） ， キニアウスキー作曲
557 夕暮の歌曲， ナツシェーヅ作曲
558 夢の後に， フォーレー作曲
559 祖母のメヌエット， グリーク作曲 エルマン編曲
560 深い河， ニグローメロディー エルマン編曲
561 オリエンタル， クイ作曲
562 メヌエット第二（と調） ， ベートーベン作曲
563 ハバネラ， サラサーテ作曲
564 スパニッシ・ダンス， サラサーテ作曲
565 アンダンテ・カンタービレ， チャイコフスキー作曲

566	ドリゴのセレナーデ , ドリゴ作曲
567	スラブ舞曲 , チンバリスト作曲
568	ヴァルス・ブルーエツテ , ドリゴ作曲
569	ひばり (ラロエツテ) , グリンカ・アウアー作曲
570	エルマン・ガボット , モツアルト作曲
571	チゴイネルワイゼン , サラサーテ作曲
572	エレジー (悲歌) , マスナー作曲
573	ベルセーズ (チンバリスト) , トー・アウリン作曲
574	タンゴ , アルベニツ作曲
575	ミヌエツト , チンバリスト作曲
576	ハイドンのメヌエツト , ハイドン作曲
577	マルチニのガボット , マルチン作曲
578	プレリユー・デイウム , バッハ作曲
579	夏の夜の夢 (夜楽) , メンデルスゾーン作曲
580	ローマンス , シベリウス作曲
581	ひばり , チャイコフスキー作曲
582	トラウメライ , チャイコフスキー作曲
583	マヅルカ , シベリウス作曲
584	舞踏後の愛の夢 , チブルカ作曲
585	ステファニーのガボット , チブルカ作曲
586	快活なセレナーデ , マリー作曲
587	舞踏会の遠響 , ギレー作曲
588	古代のメヌエツト , アマニ作曲
589	露西亜マヅルカ , グリンカ作曲
590	ガボット , ボーム作曲
591	夕の祈り , ライネツケ作曲
592	谷間の姫百合 , サペルニコワ作曲
593	ベルセーズ , イルンスキー作曲
594	愛の夢 , リスト作曲
595	ラコツツイー匈牙利行進 , ベルリオーズ作曲
596	シシリエンヌ , バツハ作曲
597	胡桃の樹 , シューマン作曲
598	ヘブリユー歌調 , アクロン作曲
599	ユモレスク , トー・アウリン作曲
600	ベニスの小夜楽 , ラツク作曲
601	怪談曲 , チャイコフスキー作曲
602	マンフレツト王 , ライネツケ作曲
603	流浪楽師の歌 , チャイコフスキー作曲
604	ラブ・イン・アイドルネス , マクベス作曲

◆ヴァイオリン三部合奏 藤木楽譜
—和曲—
春雨 , 藤木喜太郎
越後獅子 , 藤木喜太郎
千鳥 , 藤木喜太郎
金比羅船々 , 藤木喜太郎
十日戎 , 藤木喜太郎
かつぼれ , 藤木喜太郎
野崎村 (連引) , 藤木喜太郎
箏曲六段 , 藤木喜太郎
元禄花見踊 , 藤木喜太郎
京の四季 , 藤木喜太郎
紀伊の国 , 藤木喜太郎
—洋曲—
マーチ , 藤木喜太郎
ドナウ河の漣 , 藤木喜太郎
スキー・ホーム , 藤木喜太郎
風の結婚 , 藤木喜太郎
マルセーユ , 藤木喜太郎
少年義勇兵 , 藤木喜太郎
セレナーデ , 藤木喜太郎
歌劇フライシユツ , 藤木喜太郎
歌劇マルタ , 藤木喜太郎
歌劇カルメン , 藤木喜太郎
歌劇ファウスト , 藤木喜太郎
歌劇タンホイザー , 藤木喜太郎
ボツプルリー , 藤木喜太郎
カール王行進曲 , 藤木喜太郎
ヂョセランの子守唄 , 藤木喜太郎
バグダットの酋長 , 藤木喜太郎
ウィリアムテル , 藤木喜太郎
◆コスモス楽譜
1 オリエンタルダンス
2 スパニツシユヨーク、スパニツシユセレナーデ
3 キスメット、ラバロマ
4 セレナーデ、庭の千草
5 クワドリール

6 セブィラの理髪師
7 カルメンリゴレット
8 トロヴァトーレアイダー
◆ハクビヴァイオリン楽譜
1 チゴイネルワイゼン , サラサーテ
2 インデアンラメント , ドボルジャツク
3 モスコの想出 , ウキニアウスキー
4 メヌエット2番と調 , ベートーペン
5 ラブインアイドルネス , マクベス
6 スラブの子守歌 , ネルダ
7 ユーモレスク , ドボルジャツク
8 セレナーデ , ドリゴ
9 ハンガリアンダンス , ブラームス
10 セレナーデ , シューベルト
11 オリエント , クイ
12 ジョセランの子守唄 , ゴダール
13 カバテイナ , ラフ
14 スプリングソング , メンデルゾーン
15 アベマリア , バツハグノー
16 ソルベツチソング , グリグ
17 セレナータ , モズコフスキー
18 ノクターン , ショパン
19 モーメントミュージカル , シューベルト
20 セレナーデ , ドルドラ
21 エンゼルスセレナーデ , ブラーガ
22 ダンスオリエンタル , ルポミルスキー
◆斉藤ヴァイオリン楽譜
1 行進曲 ゲートシチー
2 ガホツト
3 ワルツ ダニユブ河の漣
4 ミヌエツト
5 小夜楽
6 ハイアワザ
7 トロメライ
8 詠嘆調
9 行進曲 双頭鷲旗の下に
10 行進曲 皇国の民

11 ポルカマヅルカ
12 歌劇 ファウスト
13 歌劇 タンホイザーマーチ
14 歌劇 ローエン格林
15 歌劇 さまよへる和蘭人
16 歌劇 ドンジュアン
17 歌劇 カルメン
18 歌劇 リゴレット
19 チブシーロンド
20 オツクセンメヌユエツト
21 戴冠式行進曲
22 カバレリヤルスチカナ
23 ローレイワルツ
24 アニトラの舞
25 メリーウイドー
26 ウモレスク
27 舞曲 小夜枕
28 舞曲 シャコネ
29 ハンガリアンダンス
30 有名なる行進曲
31 アルゼンチンタンゴ
32 スペニッシュダンス
33 ミリタリーマーチ
34 瑞典の結婚式行進曲
35 行進曲 闇より光明へ
36 凱行進曲
37 幻想曲 デルヒー市の戦闘
38 幻想曲 アメリカよ永久なれ
39 総合行進曲戦勝記念
40 ノールウェーダンス
41 歌劇 ミニヨンガボツト
42 無謳歌チヤイコウスキー
43 ヴェニス <small>の</small> 遊舟歌
44 歌劇 アイダ
45 歌劇 ウイリアムテル
46 黒人ダンス
47 行進曲 松明行列
48 セレナーデ
49 歌劇 フライシューツ

50 子守歌
51 マズルカ 栗の樹の下
52 ガボット 巴里とヘレナ
53 剛毅陸軍ポルカ
54 セレナーデ (ドンジュアン)
55 歌劇 セヴィラの華公子
56 行進曲 魔神
57 収穫踊
58 たそがれの曲
59 行進曲 仏蘭西の詩誦者
60 人形の踊
61 セレナーデ
62 ラパロマ
63 スパニツシュセレナーデ
64 金婚式
65 月光の曲
66 サラバンデ
67 琴曲 六段の調
68 豊年踊
69 十日戎と深川
70 琴曲 千鳥
71 さらしの曲越後獅子
72 春雨
73 マドリガール
74 バスツアの息子
75 ラルゴー
76 コールニードライ
77 ベルソース
78 カンゾネッタ
79 夜の曲 , シヨパン曲
80 ソナタ , ベートヴェン曲
81 ミヌエツト , ベトヴェン曲
82 狩の歌 , メンデルゾーン
83 牧童 , ウイルソン曲
84 楽しき農夫 , シューマン
85 弦の調べ , バッハ曲
86 ハンガリアンマズルカ , ボーム曲
87 観兵式行進曲 , クロスピー曲
88 セレナーデ , ドルドラ曲

89 オリエンタル , クイ曲
90 冴る月影ワルツ , ボルフ曲
91 胡蝶と蝨螻 , サイト舞曲
92 野辺の菱笛 (ツーステツプ)
93 コツペリア (デリブ)
94 スーヴェニール (ドルドラ)
95 循環楽 (ウエベル)
96 ラ、マンドリナータ
97 田園舞踊 (牧場娘の夢)
98 アダチオ (三部合奏)
99 ハイドンのメヌエツト
100 歌の調べ (バッハ)
101 楽しきセレナーデ (マリー)
102 カヴァチナ (ラツフ)
103 ゴセツクのカヴオツト
104 ポロナイズ , シュベルト
105 イヴニングベルス
106 さすらひ人の歌 (シューマン)
107 羊のカヴオツト (マルチニ)
108 交響楽第6番G調 (アンダンテ)
109 交響楽第6番G調 (メヌエツト)
110 狂想曲鬼火
111 舞台の場景 , チブルカ
112 交響楽5番メヌエツト , モザート
113 ドリゴのセレナーデ , ドリゴ
114 春のめざめ , エマヌエルバツハ
115 モーメントミュージカル , 1 シュベルト
116 モーメントミュージカル 2
117 モーメントミュージカル 3 , シュベルト
118 ロザムンド , シュベルト
119 清きダニユーブの流れに沿ひて , ヨハンストラウス
120 ロンドレット , マツクスフロリアン
121 ローマンザ , マーガレットトジャコブソン
122 小舟にて , レーエル
123 アーゼの死 , グリーケ
124 朝暁の巡邏 , ヴイルキリヲランザート
125 見慣れぬ国 , バーナードウオルフ
126 セクレツト , レオナードガラタイ
127 スナツプドラゴン , カールクヘベル

◆サイトーヴァイオリン単音楽譜
1 チゴイ子ルワイゼン
2 波濤を越えてワルツ
3 洗熊隊の闘争
4 暗黒市よりの反響
5 ポーゼンの思ひ出
6 短誦 (モーメントミュージカル)
7 名なし草 (シンプルアベユ)
8 スパニツシユワイゼン
9 気軽な寡婦 (ワルツ)
10 バラード
11 暁の明星 (モーニングスター)
12 夕星 (イヴニングスター)
13 槍騎兵の突撃
14 舞踏会の反響
15 マズルカ
16 ヴインナマーチ
17 揺籃の歌 (クレードルソング)
18 メヌエット
19 春の醒め
20 天使夜曲 (エンゼルスセレナーデ)
21 サンチャゴ (スパニツシユワルツ)
22 遊楽場行進曲
23 鶯
24 ソルヴェーヂの歌
25 百萬弗女王
26 波蘭舞踊
27 キングカールマーチ
28 春の歌 (スプリングソング)
29 アヴェマリア
30 行進曲国際聯盟
◆サイトー実用楽譜
1 マスコット
2 トラヴィアタ
3 トロヴァトーレ
4 マルタ
5 ホーマン物語

6 ボヘミヤの少女
7 カルメン
8 ファウスト
9 幻影
10 ながれ
11 ハバネラ
12 夜のまどろみ
13 わすれなぐさ
14 シシリアノ
15 子守唄
16 揺籃歌
17 栄えよエジプト
18 羊かひのなげき
19 汝が碧き眼もて
20 秘めし恋
21 わかれ得めや
22 月下のマンダリン
23 たより (郵便)
24 わが太陽
25 古き都のマドリッド
26 ローエン格林結婚の歌
27 絶望
28 哀愁
29 恋のマンダリン
30 悩しき微笑
31 かたみの薔薇
32 失へる恋
33 夜のささやき
34 聴けモキングバードに
35 勇気
36 団欒
37 秋風
38 青春と愛
39 金の草を穿いた星
40 小川の歌
41 春の祭り
42 夜のまもり
43 冒険
44 獵人の合唱 (三部) (歌劇フライシューツより)

45 暴風雨の叫び
46 繁みの葉陰に (英国舞踊曲より)
47 かへる燕
48 まぼろし
49 悲しき訣別
50 さくらんぼう
51 燉く太陽
52 すみれ
53 燃ゆる夕空
54 静けき船路
55 ヴェニス夕空
56 セヴィルの鐘
57 眠れ静かに
58 悲しき夢
59 つばさ
60 小夜曲
61 放浪の音楽師
62 優し乙女
63 古里の海
64 悲しみ
65 春の歌
66 二つの心
67 しぼめる花
68 なみだ
69 偽らぬ告白
70 夜の幸
71 思出の春
72 静けき夜
◆甲賀夢仙編ヴァイオリン二部楽譜
十字軍の名誉
ボヘミアの少女
コブルゲルマーチ
銀波の曲
汝よ汝よ意中の友
安南王の行列
少女ポルカ
ウインゾルの楽境婦
露国皇帝と工匠射手

惜別の曲
スコットランド
愛妾
連隊の娘 前編
連隊の娘 後編
ストラージェラ
鷺の巣
真夜の夢
ガンボジャ人の戯曲 (二部)
龍騎馬王 (二部)
◆ヴァイオリン楽譜日本曲
新撰俗曲全集 , 溝畑秋琴
古今俗曲全集 5 , 溝畑秋琴
古今俗曲全集 6 , 溝畑秋琴
古今俗曲全集 7 , 溝畑秋琴
古今俗曲全集 8 , 溝畑秋琴
古今俗曲全集 9 , 溝畑秋琴
古今俗曲全集 10 , 溝畑秋琴
春雨 , 山田耕作
勸進帳 , 沢田柳吉
選定長唄集 1 , 北村季晴
選定長唄集 2 , 北村季晴
古今箏名曲 1 , 開成館
古今箏名曲 2 , 開成館
本手六段の調 , 北村季晴
替手六段の調 , 北村季晴
日本名曲集 , 白山清太郎
続日本名曲集 , 白山清太郎
箏三弦秘曲全集 , 甲賀夢仙
雲雀の曲 , 菊武大検校編 酒井竹保編
野辺の錦 , 菊武大検校編 酒井竹保編
浪の華 , 菊武大検校編 酒井竹保編
浪華の誉 , 菊武大検校編 酒井竹保編
稚児桜 , 菊武大検校編 酒井竹保編
松上鶴 , 菊武大検校編 酒井竹保編
御国の松 , 菊武大検校編 酒井竹保編
都の春 , 菊武大検校編 酒井竹保編
五段六段の調 , 菊武大検校編 酒井竹保編

浜千鳥の曲， 菊武大検校編 酒井竹保編
千鳥の曲， 菊武大検校編 酒井竹保編
◆中尾都山ヴァイオリン楽譜
千鳥の曲， 中尾都山編
残月， 中尾都山編
春の曲， 中尾都山編
夏の曲， 中尾都山編
秋の曲， 中尾都山編
冬の曲， 中尾都山編
鶴の声、ゆき， 中尾都山編
黒髪、夕空、袖香爐， 中尾都山編
御国の誉， 中尾都山編
雪月花， 中尾都山編
越後獅子， 中尾都山編
松上鶴， 中尾都山編
新高砂， 中尾都山編
楓の花， 中尾都山編
新松竹梅， 中尾都山編
美だれ， 中尾都山編
吾妻獅子， 中尾都山編
松風， 中尾都山編
磯千鳥， 中尾都山編
さむしろ， 中尾都山編
松竹梅， 中尾都山編
夕顔， 中尾都山編
松曳の松， 中尾都山編
巖上松， 中尾都山編
明治松竹梅， 中尾都山編
玉川， 中尾都山編
萩の露， 中尾都山編
萬歳七草， 中尾都山編
八千代獅子， 中尾都山編
稚児桜， 中尾都山編
はととぎす， 中尾都山編
摘草， 中尾都山編
金剛石、水は器， 中尾都山編
椿尽し， 中尾都山編
茶音頭， 中尾都山編 利安無声編

銀世界， 中尾都山編 利安無声編
新鶴の巣籠， 中尾都山編 利安無声編
六段， 中尾都山編 利安無声編
秋の言の葉， 中尾都山編 利安無声編
新玉の曲， 中尾都山編 利安無声編
四季の詠， 中尾都山編 利安無声編
搦枕， 中尾都山編 利安無声編
◆甲賀夢仙ヴァイオリン譜
雪と黒髪， 甲賀夢仙編
春雨、梅住にも春、降りて行く， 甲賀夢仙編
乃木大将武士の鑑， 甲賀夢仙編
水は器， 甲賀夢仙編
新鶴の巣籠， 甲賀夢仙編
摘草， 甲賀夢仙編
三つの景色， 甲賀夢仙編
茶音頭， 甲賀夢仙編
萩の露， 甲賀夢仙編
千鳥の曲， 甲賀夢仙編
八千代獅子， 甲賀夢仙編
墨絵の月， 甲賀夢仙編
椿づくし， 甲賀夢仙編
はととぎす， 甲賀夢仙編
金剛石， 甲賀夢仙編
松の壽， 甲賀夢仙編
初音， 甲賀夢仙編
相生の曲、六段， 甲賀夢仙編
嵯峨の秋， 甲賀夢仙編
おらんだ萬歳， 甲賀夢仙編
鶴の巣籠， 甲賀夢仙編
青海波、日本ポルカ， 甲賀夢仙編
長唄越後獅子， 甲賀夢仙編
同鶴亀， 甲賀夢仙編
同小鍛冶， 甲賀夢仙編
稚児桜， 甲賀夢仙編
夏の曲， 甲賀夢仙編
夜々の星， 甲賀夢仙編
名所土産， 甲賀夢仙編
京きぬた， 甲賀夢仙編

松の栄， 甲賀夢仙編
横槌， 甲賀夢仙編
打盤， 甲賀夢仙編
今小町， 甲賀夢仙編
大内山， 甲賀夢仙編
笹の露， 甲賀夢仙編
御山獅子， 甲賀夢仙編
八重衣， 甲賀夢仙編
宇治廻り， 甲賀夢仙編
住吉詣， 甲賀夢仙編
雲雀の曲， 甲賀夢仙編
長唄岸の柳， 甲賀夢仙編
初音， 甲賀夢仙編
五段きぬた， 甲賀夢仙編
夕空， 甲賀夢仙編
残月， 甲賀夢仙編
◆新特撰楽譜 民衆書房発行
独唱曲 コスモス
露
斉唱 飛行機
星の光り、ほし
35 五月の窓より
36 少女のほこり、かへる唱歌
37 瀧、夏の庭、水鶏
38 学校ごっこ
39 遊泳、ボンボン時計
40 楽のおとづれ、子守唄、幼な日の憶ひ出
43 月
44 こま、秋の湖上
48 池、月、磨墨
49 国の誇り、かがみ草花
65 晴天、雨天、なすのよー
70 秋季運動会美しき天地
71 白露、晩秋山行
75 春の風
76 かくれんぼ、権兵衛と田吾作
77 椿、春
78 桃咲く里、春日郊行

79 しきりに散る花
80 虹の橋、春の山里
81 蛙の子、雲雀
82 友のうつしゑ、飛行機
87 夏の山、ポスト
88 秋夜懐郷
90 かくれんぼ
95 汽車の旅
96 蝶々のお家、画の月
◆特撰新唱歌
3 父さん恋し
7 レールが走る
8 山のお寺
9 初雪
10 雪、ユキ
11 みみず汽車
◆シンキョウ楽譜
かもめ， 弘田龍太郎作曲 室生犀生詩
牧人の嘆き， 弘田龍太郎曲 長尾豊歌
あさね， 弘田龍太郎 村山至太歌
表情遊戯昔ばなし， 弘田龍太郎 長尾豊歌
月待草， 草川信作曲 村田米四歌
印度の悲歌， ベンペール作曲 大須賀績歌
雲雀， グリンカ曲 長尾豊歌
四ツ葉のクロバー， ロイテル曲 吉丸一昌訳歌
凋落， 多忠亮作曲 平井晩村詩
少女小曲かきつばた， 多思亮作曲 有本芳水歌
女声二部かへれ， ユングスト作曲 林古溪歌
女声二部春のゆくへ， アプト作曲 葛原しげる歌
女声三部水蜻蛉， バーヂェル作曲 伊藤武雄訳
混声合唱鶯， チャイコフスキー作曲 福居鎌一郎訳
父と子， 船橋栄吉作曲 浜田廣介歌
乳草， 船橋栄吉作曲 浜田廣介歌
踊り子， 船松栄吉作曲 白鳥省吾歌
乙女ごころ， 芝祐泰作曲 森居乙女歌
男声四部舟乗の唄， ワグネル作曲 高野辰之助作
折ればよかつた， ブラームス作曲 高野辰之助作歌

◆新作楽譜
1 嘆ける処女 (独唱歌)
2 すべては夢なれや (独唱歌)
3 少年進行曲 (ピアノ曲)
4 お父さんと坊や (独唱歌)
5 夏の夜の森 (ヴァイオリン曲)
6 夕と朝 (独唱歌)
7 水車 (独唱歌)
8 雨にぬれて (独唱歌)
9 春風のロンド (独唱歌)
10 野辺の祈り (独唱歌)
11 眠の前に (独唱歌)
12 古りにし夢 (独唱歌)
13 さらばひなげし (独唱歌)
14 漂ふ舟 (独唱歌)
15 地におちて (独唱歌)
16 爽かなる朝 (独唱歌)
17 惜春賦 (独唱歌)
18 黄色い鳥 (独唱歌)
19 あかるい晩 (独唱歌)
20 ひわ (独唱歌)
21 お馬と雨 (独唱歌)
22 いづこより (独唱歌)
23 コスモス (独唱歌)
24 鈴蘭 (独唱歌)
25 宵闇 (独唱歌)
◆創作曲譜 白眉出版社発行
1 雲の行方 (小唄) , 山本芳樹作曲
2 旅がらす (童謡) , 山本芳樹作曲
3 春のなげき (小唄) , 山本芳樹作曲
4 ねんねの唄 (童謡) , 山本芳樹作曲
5 友と別れて (小唄) , 山本芳樹作曲
6 里ごころ (童謡) , 山本芳樹作曲
7 兔のお耳 , 山本芳樹作曲
8 栗鼠のはなし , 山本芳樹作曲
◆童話唱歌

1 はだか虫
2 牧場の兎
3 青い鳥
4 すきとくわ
5 茶目子の一日
6 毬ちゃんの絵本
◆白眉楽譜声楽
1 ス井ートホーム
2 オソレミオ
3 アイダ
4 カルメン
5 ファウスト
◆白眉声楽楽譜
1 シュウベルトの子守唄
2 トラヴィアタのARIA
3 アヴェマリア (グノオ作)
4 恋の合唱 (ファウスト)
5 闘牛師の歌 (カルメン)
6 シチリアナとロオラの唄
7 ホフマン物語の船歌
8 ロオエングリンの婚礼曲
9 巡礼合唱曲 (タンノイゼル)
10 ジブシイの唄 (カルメン)
◆ハーモニカ楽譜
最新ハーモニカ名曲集 , 三木発行
ハーモニカ活法 , 共益商社
ハーモニカ速成 , 白眉社
ハーモニカ曲粹 , 白眉社
ハーモニカ模範楽譜 1 , 白眉社
ハーモニカ模範楽譜 2 , 白眉社
ハーモニカ模範楽譜 3 , 白眉社
二部合奏 ハーモニカ名曲集
二部合奏 ハーモニカの習ひ方
ゼーモストポップユラハーモニカピース 1 , 川口章吾 共益商社
ゼーモストポップユラハーモニカピース 2 , 川口章吾 共

益商社
ゼーモストポピュラハーモニカピース3 , 川口章吾 共益商社
ゼーモストポピュラハーモニカピース4 , 川口章吾 共益商社
ゼーモストポピュラハーモニカピース5 , 川口章吾 共益商社
ゼーモストポピュラハーモニカピース6 , 川口章吾 共益商社
◆白眉ハーモニカ楽譜
1 カルメン , 春柳振作編
2 アイダ , 春柳振作編
3 ウ井リアムテル , 春柳振作編
4 エスタデイアンテナ , 春柳振作編
5 オヴァーザウエーブス , 春柳振作編
6 ラパロマ , 春柳振作編
7 ラブインアイドル子ス , 春柳振作編
8 スパニシユヨーク , 春柳振作編
9 土耳其の巡邏兵 , 春柳振作編
10 双頭鷲の下に , 春柳振作編
11 ス井トホーム , 春柳振作編
12 ダニユーブ河の漣 , 春柳振作編
13 タブリンベ、チップラリー、オーバーゼアー , 春柳振作編
14 天国と地獄 , 春柳振作編
15 キスメツト , 春柳振作編
16 ユモレスク , 春柳振作編
17 金婚式 , 春柳振作編
18 ホフマンの船唄、私の太陽よ , 春柳振作編
19 ファウスト , 春柳振作編
20 (ドリゴ) セレナーデ , 春柳振作編
21 イルトラバトーレ , 春柳振作編
22 バグダットの酋長 , 春柳振作編
23 ダンスオリエンタル , 春柳振作編
24 リゴレット , 春柳振作編
◆共益ハーモニカ楽譜
1 ス井トホーム , 高橋湘翠編

2 舞踏の夢 , 高橋湘翠編
3 カルメン , 高橋湘翠編
4 黒鷹の曲 , 高橋湘翠編
5 セビラの理髪師 , 高橋湘翠編
6 金婚式 , 高橋湘翠編
7 ドナウエレン , 高橋湘翠編
8 アンダーザバナナオブ、ビクトリー , 高橋湘翠編
9 スパニツシユヨーク , 高橋湘翠編
10 カヴレリ、アルスチカナ , 高橋湘翠編
11 快走船 (二部合奏) , 高橋湘翠編
12 ラブインアイドル子ス , 高橋湘翠編
13 オバーゼアー , 高橋湘翠編
14 ラ、パロマ , 高橋湘翠編
15 六段 , 高橋湘翠編
◆ザモストポピュラーハーモニカピース
1 セビラの理髪師 , 川口章吾編
2 巡邏兵の通過 , 川口章吾編
3 小夜曲 , 川口章吾編
4 フラデアボロ , 川口章吾編
5 カルメン , 川口章吾編
6 虹 , 川口章吾編
7 トラバートル , 川口章吾編
8 ラブイン、アイドル子ス , 川口章吾編
9 ソルヂャーマーチ 川口章吾編
10 ケーク、ヨーク、ダンス , 川口章吾編
11 オバー、サ、ウエーブス , 川口章吾編
12 越後獅子 , 川口章吾編
13 森の囁き , 川口章吾編
14 春のほほゑみ , 川口章吾編
◆吹奏楽器教本
新編吹奏楽 , 石原重雄
楽隊用吹奏楽器教本 , 小島賢八郎
簡易楽隊教本